

北海道大学関西同窓会会報 第93号 2025年9月

Be ambitious



年会費の納入のお願い

同窓会事業運営の為、年会費の納入を宜しくお願い致します。年会費は同封の払込取扱票にて原則お願いしています。

今回の令和8年度の年会費対象期間は、2025年9月1日～2026年8月31日です。令和8年度をすでに納入済の方には払込取扱票は同封していませんが、会費納入済で広告掲載者の方は広告料のみの金額の払込取扱票となっています。

払込取扱票を使用しないで振込される場合は必ず氏名と会員番号（払込取扱票の左下の学部・番号）の記載をお願いします。また、ゆうちょ銀行からとそれ以外の金融機関からでは下記のように口座番号が違います。

郵便振替口座口座名：北海道大学関西同窓会

ゆうちょ銀行からの振込の口座番号： 00920-1-89690

他金融機関からの振込の口座番号：

店名〇九九（ゼロキウキウ）店番 099 当座 0089690

※広告掲載者の方の払込取扱票は、会費と広告料（未払い分を含む）の合計です。宜しく御願います。納入についてお問い合わせのある方はelmkansai@hokudai-kansai.org会計入江宛ご連絡下さい。

会報は関西同窓会ホームページに公開しています

こちらの URL か QR コードからご覧いただけます。

<https://hokudai-kansai.org/category/be-ambitious>



住所変更の連絡とメールアドレスの提供のお願い

送付した会報が宛先不明として返送されたり、メールアドレス不明のためメールが届かない場合が多数発生しております。住所変更やメールアドレスの新規登録あるいは変更がありましたら、速やかに当同窓会ホームページの一番下にある「**お問い合わせ**」欄から同窓会宛に連絡をお願い申し上げます。その際、封筒に記載の学部と番号（例：理 087）も「連絡事項」欄に入力願います。ホームページからの入力難しい場合は、同窓会館宛に郵便・Fax でお願ひ致します。

こちらのQRコードからも入力いただけます。



広告出稿のお願い

更なる円滑で充実した活動の為に下記要領で広告をお願いしています。

広告のスペースと代金

1/16 頁 (名刺様式)	3,000円	1/2 頁	15,000円
1/8 頁	7,000円	1 頁	30,000円
1/4 頁	10,000円	連名広告	2,000円/1人

お支払いは、原則として同封の払込取扱票にてお願いします。払込取扱票を使用せずに振込される場合は、上記の「年会費の納入のお願い」に記載の郵便振替口座をお願いします。



コンポジション



ライオン橋 (難波橋)



憩いのひととき



北大モデルバーン



中山寺里山の春

職場(大阪府庁)に絵画クラブがあったので入会し、手慰みのつもりで書き始めました。

30年ぐらい続けていますが独学で、感動を受けた対象を丁寧に描いてきました。いずれも大阪府庁絵画クラブ『ぎんなん会』に出展したものです。

コンペティション(展覧会)に出したことはありませんが、年に2~3枚程度気分が乗った時に描いています。

伊藤靖久(1967(S42)工)

「北海道大学創基150周年を思う」の投稿を募集中です！

私たち北大卒生は150年前のクラーク博士に始まり現在に至る流れの中のある時代に北海道大学と札幌に育まれた者たちと言っても良いのではないのでしょうか？

学生時代の北大愛はそれほど意識する事が無かったかも知れませんが、最近では札幌に対する望郷の念や、北大愛らしきものを感じる機会が増えているかもしれませんね。

さて 150 周年を前に、関西同窓会季刊誌「Be ambitious」にそんな皆さんの北大愛や思い出から考えた事柄等について・・を投稿して欲しいと思います。

原稿の送付先 elmkansai@hokudai-kansai.org

私は北大にあこがれ入学しましたが、北大のある街札幌の生活が極めて刺激的でした。一般的には「札幌」と言えば其処は観光地のイメージが強いと思います。京都に似ているかもしれません。しかしそこで大学生活を送った人達にとっては、別の場所で学ぶのとは違った印象を受けていたかもしれませんね。こんな幸せな事はそんなに無かったのかもしれません。

私たちは北海道の発展と共に北大があり続けた事を知っています。

この事はこれからの未来も北海道と共に北大が如何に在り続けるのか？

日本や世界にとっては如何なのか？書いてください。

原稿の送付先 elmkansai@hokudai-kansai.org

例えば十勝の食料自給率が1200%だと言われますが、これが国の食料戦略に繋がっているのでしょうか？例えばここで北大にできる事は在るはずでは？

これから未来に向けて北大や北海道に対するエールを送る責任があると思いますが、如何でしょうか？500字程度の投稿～少し多くても大丈夫ですよ。

奮って投稿してください！ われわれ編集委員全員が待っています！

山田勝重 記

2025 年通常総会、特別講演会及び懇親会のご案内

北海道大学関西同窓会 会長 植松高志
一社）札幌農学同窓会関西支部 理事長 山田勝重

北海道大学関西同窓会の通常総会、札幌農学同窓会関西支部 20 周年記念
秋季講演会、並びに懇親会を以下の要領で開催いたします。
皆様奮ってご参加の程、お願い申し上げます。

日時： 2025 年 10 月 19 日（日曜日）13：00～19：00

会場： ホテル日航大阪 7 階 「フォンタナ」の間

次第：

- ◇13：00 受付開始、岩井圭也先生サイン会（1）
- ◇13：30 北海道大学関西同窓会 通常総会
- ◇14：30 札幌農学同窓会関西支部 20 周年記念秋季講演会
講師：小説家・一般社団法人ホンミライ理事
岩井 圭也先生（H24 農学院応用生物）
講演テーマ：「小説が人生を切り拓いてくれた」
- ◇16：20 北海道大学理事・副学長 高橋 彩先生
「北海道大学の創基 150 周年事業及び教育国際化について」
- ◇16：40 休息 & 岩井 圭也先生サイン会（2）
- ◇17：00～19：00 懇親会

参加費：9,000 円

北海道大学関西同窓会会員の方で、当日までに年会費未納の方は、年会費を徴収させていただきます。

特典：岩井圭也先生の新刊「サバイブ！」を先着 100 名に無料進呈。

申込締切：2025 年 10 月 10 日

申込方法：QR コード、またはメールにてお申し込みください。

メール申し込み先等：

北大関西同窓会（elmkansai@hokudai-kansai.org）に、
「氏名」「卒業年」「出身大学院・学部・学科」「メールアドレス」を記載して、お申し込みください。



北海道大学 札幌農学同窓会
第19回市民公開フォーラム

Hokkaido University
農学部
Faculty of Agriculture



キノコ
と共に
健康長寿

はじめよう「大人の食育」新習慣

「大人の食育」
展示
・パネル
・パンフレット等

おみやげ
プレゼント
・ヤマブシタケ
・椎茸
・発酵食品

入場無料

2025
11月23日
(日)
13:00~16:30

豊中市立文化芸術センター
多目的室

大阪府豊中市曽根東町3-7-2
(阪急「曽根駅」から徒歩5分)



はじめよう「大人の食育」新習慣 キノコと共に健康長寿

キノコは食物繊維に富み、ビタミンD、抗酸化物質を多く含み免疫向上や生活習慣病予防に役立ちます！

健康長寿を支える**大人の食習慣**を始めましょう！

■12:30 ～ 受付

展示見学

(近畿農政局、北海道、北海道大学、参加企業)

なぜヤマブシタケは健康に良いのか？

■13:10 ～ 基調講演

「ヤマブシタケの脳機能改善に関する研究」



河岸 洋和氏 静岡大学特別栄誉教授

ヤマブシタケはベニタケ目ハリタケ科ヤマブシタケ属のキノコ。私たちは1990年から、ヤマブシタケの抗認知症効果に関する研究を始めました。

私たちの研究を契機に、現在では世界中でこのキノコの栽培や機能性食品としての開発が進んでいます。本講演では、このキノコの抗認知症効果に関するこれまでの経緯と最新の結果を紹介します。

キノコが創る美味しさと健康と新しい可能性について

■14:20 ～ パネルディスカッション

パネリスト



河岸 洋和氏

静岡大学特別栄誉教授



小堀 一氏

岩出菌学研究所 研究開発部 部長
農学博士
きのこアドバイザー



杉山 文氏

相愛大学教授
料理研究家



深山 陽一朗氏

深山農園代表



ファシリテーター

関 恵氏 発酵食堂カモシカ 代表

アクセス

豊中市立文化芸術センター



〒561-0802
大阪府豊中市
曾根東町3-7-2
TEL 06-6864-3901

アクセス情報



■電車でお越しの方

阪急宝塚線 曾根駅
東へ約300メートル徒歩約5分

■お車でお越しの方

地下(有料)64台(うち小型3台、
身障者用3台)初めの30分は無料

タイムスケジュール

12:30 受付・展示見学開始

13:00 開会・挨拶

13:10 基調講演

14:20 パネルディスカッション

16:30 閉会

アンケート・お土産

お問合せ先:

「第19回市民公開フォーラム」札幌農学同窓会関西支部

大阪市北区梅田1丁目2番2-200号 大阪駅前第2ビル 2階 北大会館

TEL/FAX 06-6343-3736

メール: agrikansai@hokudai-kansai.org

お申し込みはコチラから



主催 札幌農学同窓会関西支部

共催 北海道大学関西同窓会

後援 近畿農政局、大阪府、豊中市、北海道、相愛大学、サンプラザ、
要薬品、マザープラス

目 次

巻頭言	最近思うこと	八田方良	7
特集	1 新渡戸の夢～学ぶことは生きる証～	室田信男	8
	2 北大は私の青春の舞台	水谷隆彦	10
	3 北大創基 150 周年を思う	田中和裕	11
	4 北大時代の 9 年間	池田雄二	11
	5 私の北大愛	松下秀之	13
行事	1 2025 年北大会館祭開催報告	岩崎 忠	16
	2 ウシを活かす未来型畜産システム：草資源・代謝プログラミング・スマート技術による畜産システムのパラダイムシフト	後藤貴文	18
	3 北大会館祭りのこと	日下大器	21
特別報告	令和 7 年度校友会エルム総会参加報告	福井 毅	23
会員活動	1 南紀で出会った北大～和歌山研究林ツアーに参加して	林 祥史	25
	2 糖尿病について ～第 5 次対糖尿病戦略 5 ヶ年計画のご紹介	根本浩一郎	27
	3 ようこそ、ロマンあふれる古代史の世界へ	三津正人	29
広告			32
同窓会活動	1 第 30 回歴史ウォーク 「郡山城（大和国）・城下町探訪」の報告	植松高志	36
	2 2025 年第 2 回北大関西同窓会若手交流会開催報告	光地悠輔	39
	3 二水会・三金会の講演一覧（2025 年 3 月～2025 年 8 月）	藤田久美	41
お知らせ	1 本学関連のトピックス	本学広報課	42
	2 入退会者情報		45
	3 北大会館サポーターならびに募金箱のご報告		
	4 役員会議事録公開のお知らせ		
編集後記		編集委員全員	46

最近思うこと

八田方良（1977（S52）農）



3年前に契約社員として勤務していた会社を退職しましたが、その少し前から北海道大学関西同窓会、札幌農学同窓会関西支部に参加するようになり、大阪駅前第2ビルの北大会館にも行くようになりました。同窓会のHPは会社を退職するまでは全くみていませんでした。HPをみると二水会、三金会、古代史を学ぶ会、歴史ウオークなど色々な企画が載っているし、会報Be ambitious も見ることができました。入会すると、メールでの案内や会報を送っていただくようになりました。少し参加していると、会館の当番をやりませんか？ということになり、現在、ゆったりと1か月に数回やっています。会館は梅田の大阪駅前第2ビルの2階という大変いい場所にありますので、当番の時は都会に行くぞ！という気分で自宅を出発します。先輩の寄付で会館を2002年11月に購入・取得したということを聞き、びっくりしました。実は会館の同じ階の反対側に、勤務していた会社の得意先（今はありませんが）があり、何度か伺ったことがあったので、驚きでした。

会報Be ambitious には今まで3回投稿しています。文章を書くのはあまり得意な方ではありません。が、第88号（2023年4月）に札幌農学同窓会関西支部の新理事ということで自己紹介として初投稿。2度目は第91号（2024年10月）に同窓会活動として初参加した第28回歴史ウオークで嵯峨嵐山駅から北大卒業生の関恵さんが起業した発酵食堂カモシカ、渡月橋・天龍寺等を巡ったことを投稿。そして第92号（2025年4月）からどういうわけか会誌編集委員となり、人生初体験の会報編集委員として編集後記に5行記載させていただきました。

1974年に教養から農学部農学科に25名（うち、女性5名）が移行しました。育種、食用作物、工芸作物、果樹蔬菜園芸、花卉造園の5講座でした。1977年に農学科果樹蔬菜園芸学講座を卒業して50年近くになりますが、北海道大学のHPも最近までほとんど見ていませんでした。大学のHPねえ・・・と思っていたのですが、素晴らしいの一言です。大学のHPから農学部をみると、なんとその中に農学科果樹蔬菜園芸学講座はありません。ショック！1992年に農学部は再編され、生物資源科学科（入学定員36名）の園芸学研究室になっているようです。当時、野菜、果実の保存や茎頂培養などの研究を少しみせていただいたのですが、現在も主な研究テーマの中にはいっているようです。

大学のサークルは民謡研究会合唱団わだちに所属して、ソーラン節や太鼓、八木節や秋田音頭、うたと踊りをやっていました。大学のHPでは現在は伝統芸能サークルわだちとなっています。今も、ソーラン節や太鼓を小学校や中学、高校の運動会や地区の納涼祭りなどでやっているようですね。今でも教えること、できますよ！

在学時に100周年、来年は北大創基150周年ですね。農学科同期みんなと卒業後会っていません。同期会、ぜひやりたいと思います。

新渡戸の夢～学ぶことは生きる証～

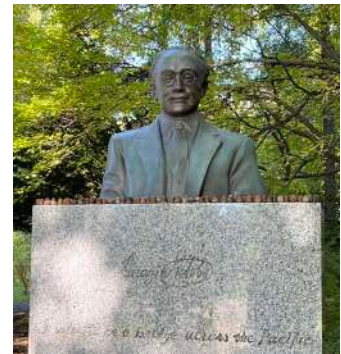
室田 信男 (1962 (S37))

はじめに



2024 年 9 月 3 日に、3 年ぶりに映画館で映画を見ました。新渡戸稲造のドキュメンタリー映画「新渡戸の夢～学ぶことは生きる証～」（野沢和之監督作品）です。感動しました。映画は 1894（明治 27）年の 6 月に、新渡戸博士の教育の実践理念である「世の中のため、人のため」という考え方を生涯の信条として創立した「遠友夜学校」のことを詳細に描写しておりました。この夜学校は、学びたくても学校へ行けない人や昼間働いている人たちが学べる施設で、学費はなし、男女共学、先生は生徒の友達など、当時の時代・社会背景では全く例のない、先進的かつ

慈愛に満ちたものであり、大人の生徒たちが実に楽しそうに学んでいる姿が長々と映し出されます。算数の時間で老年期の生徒たちが、 $9+2$ はいくらかと繰り上げ算で 11 の答えを見つけるまで、長い時間をかけて計算の根拠を和気あいあいと話し合っている様子など、学ぶ喜びと教える優しさが、克明に描き出されておりました。私個人としては、新渡戸稲造の萬里子夫人との出会いや米国での生活、国際連盟時代の活躍など、もっと新渡戸稲造の生の生活実態について知りたいところでしたが、家へかえってゆっくり考えてみて、これはタイトルに「学ぶことは生きる証」とあるように「遠友夜学校」での学ぶ喜びと教える優しさを、監督が本当に克明に描きたかったのだと思いいたりしました。



北大ポプラ並木前の胸像

「遠友夜学校」と半澤洵

実はこの映画を見て私は三つの大切な情報を得ることができました。

その第一は映画の途中で、ほんの数秒間だけ画面下側に小さく表示された「半澤洵」という名前を発見したことです。皆様の中にも、半澤洵という名前は、北海道大学農学部で、「納豆博士」と知っている方がいるかと思います。従来納豆の製造方法は、柔らかく茹でた大豆を麦わらに包み、これを 1～2 日暖かい所で保管し、麦わらについている納豆菌による発酵作用で納豆にするもので、生産性も悪く非衛生的でもありました。半澤洵は、栄養に富み消化も良く欧米のチーズにも匹敵する納豆を、衛生的な文化食品とすべく多くの実験を重ねて、納豆菌を純粋に培養することに成功し、次にこれを茹でた大豆にほんの少し入れ、衛生的な木の薄皮（経木）に包んで、最適な温度・湿度条件で製造する「半澤式納豆製造法」を誕生させたのでした。しかし、半澤洵は「納豆博士」として有名なだけでなく、実は新渡戸稲造の「遠友夜学校」に大変大きなかかわりを持ちかつ貢献をしていたことが、今回の映画の情報と、半澤久北海道科学大学名誉教授（半澤洵の孫）による「半澤洵先生小伝」（北海道大学総合博物館ボランティアニュース 抜粋特別号、2020.12）を調べて分かったのです。

半澤洵は、札幌の創成小学校を卒業後、1892（明治 25）年に 13 歳で札幌農学校予科 19 期生として入学し、ここで当時米国とドイツ留学から帰国して札幌農学校の新進の教授となった新渡戸稲造博士 31 歳と出会い、新渡戸の薫陶を受けたのでした。農学校の同期生には有島武郎がおり、教授陣には佐藤昌介、宮部金吾、大島金太郎など俊才達がいました。

新渡戸が「遠友夜学校」を創立したのは、1894（明治 27）年の 6 月で、半澤洵は当時 15

歳ながら「遠友夜学校」の創立時から有島武郎ら同期生たちと共に同校の教師となっており、弱冠 15 歳の少年たちにとって、新渡戸が提案し実践しようとした教育に対する理念は、非常に強く影響を与えるものであったことは想像に難くありません。半澤洵は、この「遠友夜学校」における新渡戸の教育の実践理念である「世の中のため、人のため」という考え方を、生涯の信条として持ち続け、そして自らも実践したのです。半澤洵は 1901 (明治 34) 年 7 月に札幌農学校本科を卒業し、宮部金吾教授の下で植物病理学を専攻し研究者の道を歩き始め、1902 (明治 35) 年 3 月には札幌農学校助教授に任命されました。1907 (明治 40) 年に札幌農学校は東北帝国大学農科大学に改称し、半澤洵助教授はこの年に「応用菌学」の講義を開講し、1911 (明治 44) 年 12 月 6 日から 1914 (大正 3) 年 6 月まで、当時その分野の先進国であったドイツ、フランス、アメリカなどに留学しました。1915 (大正 4) 年に『「クモノスカビ」属菌の研究』で農学博士の学位を取得し、1916 (大正 5) 年東北帝国大学農科大学教授に、1918 (大正 7) 年に北海道大学教授となりました。以降応用菌学講座の新しい建物完成をも得て、研究・教育に精力的に励んでいきました。

半澤洵は自らの学問・研究分野に対する情熱と共に、社会事業へも情熱を持ち続け、新渡戸の尊い理念に基づく「遠友夜学校」の教師ボランティア募集に応じ、1944 (昭和 19) 年に閉校するまで、50 年間にわたりその運営・維持・発展に努めました。「遠友夜学校」は新渡戸萬理子夫人が米国の縁者から受け取った遺産全額を創立資金にあてて開講され、初代の代表は宮部金吾でしたが、半澤洵は 1921 (大正 10) 年には 7 代目の遠友夜学校代表となりました。さらに、1939 年 (昭和 14) 年からは新渡戸萬里子夫人の後を継いで第 3 代校長に就任し、新渡戸の「人間教育の理想の実現」に向け、その維持・発展に努めました。半澤洵は 1972 (昭和 47) 年 9 月 25 日に 93 歳で永眠しますが、人生の半分以上の 50 年間「遠友夜学校」に尽力したのです。

恩師 半澤宏博士

映画を見て得た大切な情報の第二は、私が「半澤洵」に恩師半澤宏博士の家でお会いしていたことを今回思い出したことです。私は北海道大学工学部機械工学科で学ばせていただきましたが、私が学んだ当時の材料力学講座の助教授で、恩師である人が半澤宏であり、実は半澤洵の 3 男であることです。半澤宏には在学中に材料（物体）の強度力学に関する講座を学ばせていただくと共に、私の卒業論文の指導と実質的に審査をもしていただきました。私の卒業論文は「橋形クレーンの応力解析と構造設計」というテーマで、現在ではコンピュータとソフトウェアによって計算準備が済めば、数分でクレーンの構造部分に発生する応力と強度判定をすることができるのですが、昭和 36 年当時は静定トラスの図式解法といって、クレモナの応力図というものを作成するため、製図室で何日もかけてクレーン各部に作用する力と応力を、作図と計算で求めなければなりません。半澤宏は、前述のお父様の教育に対する理念を受け継ぎ、私達学生に真摯に対面し、かつ熱心に講義をしてくださいました。また、先生は大変きさくな方で、製図・計算作業に没頭する学生の息抜きにと、私達学生を時々工学部の食堂横の卓球場での卓球に誘ってくださいました。

卒業の年の 1962 (昭和 37) 年の 2 月中頃に、頼まれて書類か荷物を先生の住宅へ届けたことがありました。その当時先生の住宅は桑園駅の南東の札幌市北 6 条西 12 丁目にあり、ここは植物園にも近いところで、このブロックは当時「博士村」と呼ばれ、宮部金吾、高倉新一郎、星野勇三、高岡熊雄、時任一彦などの各博士が住んでおり、「博士村」では月に一度各家持ち回りで開催する懇親会もあったそうです。南側の道路からまだ雪の残っている傾斜のある庭を、少し歩いて玄関に至ったことを覚えています。建物は現在の住宅の造りとは異なり、寺院の講堂を思わせる横に広い作りで、玄関を入るとすぐに二十畳くらいある広い部屋があり、そこが居間になっていて家族の人達がくつろいでいたのを覚えています。前述の「半澤洵先生小伝」によりますと、当時この家には、半澤洵とその奥様、洵の妹の深雪、宏

の長兄道郎とその奥様と3人の子供、半澤宏とその奥様、長男、次男、妹、弟さんの合計14人が一つ屋根の下で暮らしていたとのことでした。私が入室して行くと、年配の男の人が一瞬顔を合わせた後、奥の部屋へ移動して行きました。今回思い出したのですが、あの方が「半澤洵博士」であつたのであり、大変貴重な瞬間だったのでした。また、あの時に私と同じ部屋に二人の小学生くらいの男の子がおりましたが、後年、ともに北海道大学大学院工学研究科を修了され学位を取得し、半澤久博士、半澤卓博士として教育者・研究者として大成され、社会に大変貢献されたことを知り懐かしくうれしく思い出しました。恩師半澤宏博士は北海道大学を退官後、苫小牧工業高等専門学校校長、長岡技術科学大学副学長を歴任されましたが、1995（平成7）年4月14日に逝去されました。享年75歳でした。

「遠友夜学校」跡地

映画から得た大切な情報の第三は、「遠友夜学校」のあった場所が今も札幌の中央区南4条東4丁目に残っているということでした。2024年9月に札幌へ行く機会があり、さっそく訪問してきました。その場所は現在、東西側は道路に面して開けているも、南北側はマンションの建物にかこまれた50m×30mくらいの広さの児童公園になっており、子供達が野球をやったりして遊んでおりました。広場の入り口には新渡戸稲造記念公園の銘碑が設置されており、広場の南東側には、1974（昭和49）年に建てられた新渡戸博士夫妻の顕彰碑があって、今も「学問より実行」の揮毫と共に、公園内を慈愛にあふれた眼で見つめておられます。



新渡戸夫妻顕彰碑

おわりに

「遠友夜学校」は深い人類愛に満ちた新渡戸稲造の理想と、萬里子夫人の米国の実家からもたらされた1,000ドルの遺産をもとに開設されましたが、校名は遠い国から届いた遺産を役立てたことと、論語の「朋（友）あり、遠方より来たる。また楽しからずや」にちなんで、「遠友」と名付けられたそうです。「遠友夜学校」では教室での勉強だけでなく、スポーツや遠足・海水浴なども行い、学芸会もあったと知って、その時々生徒たちの喜びようが目に浮かんでくるようです。

そして今、上記の新渡戸稲造記念公園に「札幌遠友夜学校記念館（仮称）」の建設計画がなされているそうで、大変喜ばしいことであります。

北大は私の青春の舞台

水谷隆彦（1967（S42）水産）

昭和38年、京都から青函連絡船で北海道へ渡りました。札幌の教養時代、付属植物園の犬舎で南極観測犬「タロ」が元気に余生を過ごしているのを見て感動しました。同級生と登った空沼岳、札幌岳、駒ガ岳はその後の登山の原点となりました。ポプラ並木の逍遥、自転車での支笏湖周遊やお寺の本堂に寝泊りしての釧路行きなどが走馬灯のように思い出されます。下宿が藻岩山の麓だったので、同宿者達と仏舍利塔に登ったり、湧水で洗濯したりと大自然に身を置く生活でした。今思うといい時代だったのかも知れません。



空沼岳山頂1,249m（昭和38年7月）
筆者（右端）と同級生 背景は恵庭岳

2年目の10月に函館の学部に移転、吉村先生の生化学講義、谷川先生の水産製造学や応用細菌学の実験・実習、座間先生の有機化学実験でアスピリンの合成をしたこと等が鮮明に印象に残っています。学部の大学祭では久米正雄の短編小説「学生時代」から「鉄拳制裁」を脚本化して劇を挙行したことや、ヨット部で七帝戦に行ったこと等が懐かしく思い出されます。北大に在籍し、何事にも道を切り開いて行く精神を学ばせて頂きました。

現在、80歳の大台に乘りましたがこの精神だけは生涯持ち続けたいと思っております。

北大創基 150 周年を思う

田中和裕（1976（S51）工・修士）

北大は旧帝大の全国区の大学であり、入学後、視点が中央（東京）そして世界に向いている事を痛感しました。就職先もその当時（1976年）国家公務員、国鉄、電電公社、専売公社そして一流大企業が就職先候補となりました。その影響もあり本社が地方でなく、東京にある某大手電機会社に入社し半導体業務に従事しました。会社生活の現役時には殆ど感じませんでしたが定年退職後に同窓会の充実ぶりなど北大の素晴らしさを実感しました。定年退職後、雇用延長などを経て某国立大学の大学院博士後期課程に入学し（69歳）、去年の3月に73歳にて半導体に関する博士号を取得しました。この歳になっての博士号取得の背中を押してくれたのは根底に“Be ambitious”（この言葉の後にある“名声のためでなく、人として”）の言葉そして“フロンティア精神”が根付いていたのかもしれませんが、OBである三浦雄一郎氏の“挑戦する楽しさ”、“楽しいと思うことは限界を越える原動力になる”などの言葉に励まされたのも大きかったです。もし、仮に他の大学に入っていたらこの歳になっての博士号の取得はありえなかったと思います。私の人生において多大なよき影響を与えてくれた北大万歳！

北大時代の 9 年間

池田 雄二（2006（H18）法）



私の北大での生活は、2004年4月に法学部に編入学してから2013年3月に博士課程を単位取得退学するまで9年間に及ぶ。編入学の動機は、元々研究者志望であったところ、編入前の神奈川大学法学部法律学科で所属していた竹尾隆ゼミで、同教授から需要の多い民法か商法を専攻すること、そして編入先として、「研究者養成に重点を置く旧帝大を」、その中で「北大には良い民法の研究者がいるから」と勧めて頂いた。

編入学前にまず住居探しだったが、広くて遠いよりも狭いが、近い所を選び、北12条駅前の家賃3万円の賃貸マンションに入居し、札幌を去るまで住んだ。目の前が北大キャンパスなので、9年間、ほぼ自宅から大学の往復しかなかった。

竹尾教授が仰る「良い民法の研究者」が誰のことかははっきりとはしない。しかし敢えて尋ねようとは思わなかったのだが、当時司法浪人中だった友人から「北大には瀬川先生というビッグネームがいるぞ」と教えて貰い、瀬川信久教授のことではないかと思った。そこで編入前の希望ゼミ選択では、同先生のゼミに入りたかったが、法科大学院長だったため、その名は無く、別の先生を選ぶことにした。色々調べたが、大著を書かれている吉田邦彦教授の演習を選択した。今は知らないが、当時の3年次の演習は5限で2時間15分だった。外

が真っ暗になるまで判例研究をしたこと、それから恒例の大滝セミナーハウスでのゼミ合宿は忘れられない。

それ以外にも、同教授の民法Ⅲ（不法行為法）のご自身の最先端の研究成果、同様に今井弘道教授の現代法哲学での丸山眞男博士に対する批判的研究等、こうした先端研究を学生にぶつける姿勢については、「これが北大か」と実感した次第であった。

ゼミといえば、忘れられないのが、尾崎一郎助教授（当時）の法社会学と演習である。法社会学の講義中に紹介された参考文献として、判例（最高裁判例）は判決をする拠り所（＝法源）かどうか、という論点について廣中俊雄博士の『民法解釈学に関する十二講』の紹介を受け、読んだ。この判例の法源性という問題に関して私なりに調査していた過程で、明治8年の裁判事務心得という太政官布告の中に判例の法源性を明確に否定していると思われる条文を発見した。それがどうも未だ現行法らしいのである。ところが廣中博士は裁判事務心得には言及するのだが、上記条文には言及していなかった。これを非常に不思議に思い、裁判事務心得の成立過程、立法趣旨、その有効性等について調べ出した。これが尾崎助教授の目に留まり、瀬川教授の指導の下で卒業論文として仕上げるようになった。また、吉田克己教授からも色々なご教示を受けた。卒業論文執筆は大学院に入る前に法学論文の作法・技法の手解きを受けられる貴重な機会であり、その後の財産となった。

修士時代は実質的には瀬川教授に師事した。しかし同教授が法学研究科長になられ、指導教員になれないため、書類上は曾野裕夫教授が指導教員となり、同教授も法務省に出向されたので、最後は吉田邦彦教授の指導を再び受けた。何れにせよ、両教授からのご指導を賜った。また尾崎助教授には副指導教員としてお世話になった。

修士論文のテーマ選びは円滑ではなかった。私自身は、尾崎助教授のゼミで取り組み、原稿としてとりまとめた建築協定という、地域住民が建築基準法よりも厳しい基準を定め、良好な住環境を維持する制度をテーマにしようと考えたが、これは成らなかった。尤もこの研究は現在でも続いており、大阪府建築協定地区連絡協議会の顧問として実務にも関わっており、私の重要な研究テーマの1つとなっている。結局は、瀬川教授から重要判例として紹介頂いた、在庫等の集合した動産を担保にとって融資をする集合動産担保に関する最高裁判例（平成18年7月2日民集60巻6号2499頁）の判例報告を民事法研究会で報告することになり、大学院在籍時代から現在まで担保法を専門とする事になった。

博士課程では5年を過ごした。4年目一杯で瀬川教授が定年となり、その後は曾野教授のご指導を再び受けた。無念であるが、2013年3月に単位取得退学し、2013年度から帝京大学に赴任したため、北海道での生活は終止符を打つことになった。不肖の弟子となってしまったものの、瀬川教授のご指導は今でも胸中の模範とするところとなっている。

大学院で机を並べた学友を全て挙げることはできないが、名の通った大学や実業界での活躍を度々耳にする。しかし残念なことに、既に何人かはこの世にいない。5月、学部同期、修士から博士部屋まで同室だった五十嵐元道教授（関西大学）の訃報に接した。五十嵐君とは、札幌を離れた後の方が同期で遊びに行く等の付き合いが多かった。若くして名門の教授となったが、私より4つも若い。早すぎる死である。もう1人は、博士部屋で同室だった山本寛英准教授（愛媛大学）である。年は14も離れていて、博士部屋で同室だった当時、博士研究員で、肩書は我々とは違ったが、夜遅くまで話し込んだり、薄野の飲み屋に訳あって付いて行ったり、学問よりも人生の先輩として大いに教わるところがあった。この場を借りて心より哀悼の意を表したい。



台湾最高裁にて（2009年）
右から北大先輩の李玉璽教授、筆者、
五十嵐教授

私の北大愛

松下秀之（1979（S54）農）

1973年3月、私は高校1年生の春休みを利用して、20日間有効の国鉄周遊券を買って、ユースホステル会員証をもって、大きなリュックサックを背負って、一人で北海道旅行に出かけました。夜行列車を乗り継いで、北は礼文島、東は納沙布岬、南はえりも岬と、2週間をかけて北海道を周遊しました。もちろん、札幌にも立ち寄りました。1972年に冬季オリンピックが開催された札幌の街は美しく整備されていて、タイヤで走る地下鉄が走っていました。まだ雪がたくさん残っている時期で、札幌冬季オリンピックのテーマ曲であるトワエモアの「雪と虹のバラード」にピッタリな札幌の街がそこにはありました。そして、その時はじめて北海道大学を訪れました。私は、「なんやこの大学は、こんな大学があるんや！」と、驚きと感動で、圧倒されました。

私は、大阪府八尾市に住んでいて、大阪府立八尾高等学校の高校1年生（もうすぐ2年生）でした。八尾高校は一応進学校で、その当時でもほとんどの人が大学に進学しました。しかし、国公立大学に進学する人は2割程度で、1年生の時の私の成績は、500人いた同級生の中の真ん中くらいでした。札幌から戻った私は、1年生の時の担任だった先生に、「俺、北大にいきたい」と言ったところ、「お前の成績では無理や」と一蹴されました。それから、「北大にいきたい」という一心で、必死で勉強しました。3年生のときには上位1割に入ることができ、冬の模擬試験では10番くらいになっていたと思います。

1975年1月、北大の入学試験で、夜行列車に乗って札幌に行きました。そして、しばらくして、合格通知が届き、念願の北大に入学することができました。憧れの北海道大学に入学し、美しい札幌の街に住むことができました。まだそのころの北大はのんびりとした雰囲気、自然の中に立つ学び舎そのものでした。私は高校1年生の時に見たままの北大に入ることができて、まさに夢の中にいるような気持ちでした。

私が入学したのは1975年でしたので、まもなく北大は創基100周年（1976年）を迎えようとしていました。1976年、北大創基100周年の年、私は理類教養課程を終えて、農学部農芸化学科に学部移行しました。今では農芸化学科の名前はなくなったのですが、そのとき農芸化学科には、土壌学、作物栄養学、食品栄養学、農産物利用学、農薬化学、生物化学、応用菌学、微生物工学の8つの研究室がありました。右は、3年生の時の応用菌学研究室での実習の時の写真です。



応用菌学研究室での実習

4年生になって、私は応用菌学研究室に入り、卒業研究を始めました。応用菌学研究室は人気のある講座で、講座移行はみんなで話し合ってたのですが、私は高尾彰一先生が好きで応菌を希望し、成績は良くなかったのですが、応用菌学研究室に入れてもらうことができました。

応用菌学研究室で私を指導してくれたのは、当時助手をされていた谷田昌稔先生でした。「担子菌類の代謝に関する研究」というテーマをいただき、私はあまり勉強をしない学生だったのですが、4年生の1年間は、谷田先生のご指導のもと、たくさん実験をし、たくさんデータを出し、分厚



応用菌学研究室での卒業写真

い卒論を書くことができました。

前ページの写真は、応用菌学研究室の卒業写真です。いちばん右側が高尾彰一教授、そして、前列のいちばん左が、同期で、今の理事・副学長の横田篤さん、前列の左から 3 人目が筆者です。

1979 年、私は北海道大学を卒業して、京都の宝酒造(株)に就職し、大津市瀬田の中央研究所に配属されました。宝酒造(株) 中央研究所は、その後、宝酒造(株) バイオ事業部門になり、その後、タカラバイオ(株)になりました。私は、入社以来ずっとバイオ研究の世界で仕事をしました。そのなかで、いくつかの大学と共同研究し、研究のビジネス化に取り組みました。大阪大学タンパク質研究所の綱沢 進 先生、北海道大学薬学部の石井信一 先生、宮崎大学農学部の水光正仁 先生、そして、インディアナ大学の Dr. David Williams、などと共同研究しました。

2013 年 6 月、札幌農学同窓会関西支部の第 9 回市民公開フォーラムが開催され、北海道大学農学部教授の横田篤さんが基調講演に來られました。前述しましたように、横田さんは応用菌学での私の同級生で、同じ農芸化学科の同期で札幌農学同窓会関西支部の理事をしていた花田俊幸さんから、「横田が来るからお前も参加しろ」と連絡をもらって、私は、第 9 回市民公開フォーラムに参加しました。これが、私が北大同窓会に参加するきっかけとなりました。右は、第 9 回市民公開フォーラム参加者の集合写真です。前列真ん中に座っているのが横田さん、後列の左から 3 人目が筆者です。



第 9 回市民公開フォーラム

2015 年 10 月、東京の学士会館で、北海道大学応用菌学研究室 100 周年記念講演会が開催されました。このときは横田さんは参加されなかったのですが、私はたくさんの同じ応菌の仲間と話ができ、とくに、私が 4 年生のときにお世話になった、高尾先生の秘書をされていた岩田さんとお会いできたのは何よりも嬉しかったです。そして岩



応用菌学研究室 100 周年記念講演会

田さんは、4 年生の時に 1 年だけしかお世話にならなかったにもかかわらず、私のことを覚えてくれていました。上は、そのときの参加者の写真です。

前述のように、私は昭和 54 年（1979 年）、北海道大学農学部農芸化学科を卒業しました。私の同期には、たくさんの優秀な人がいまして、今も活躍されています。その中の一人に、岩手県奥州市の市長の倉成 淳さんがいます。奥州市は、大谷翔平さんの出身地です。その奥州市で、023 年 4 月、昭和 54 年農芸化学科同期（no-ka 54）の同期会を開催しました。

右は、そのときの集合写真です。右から 6 人目が倉成市長さん、いちばん右が横田副学長、そし



農芸化学科昭和 54 年卒同期会

て右から 8 人目が筆者です。

私は今、北大同窓会において、北大関西同窓会 理事、(一社)北大関西同窓会館 理事、(一社)札幌農学同窓会関西支部 理事、京都エルム会 理事、を務めています。同窓会活動はボランティアで、その原動力は「北大愛」です。同窓会の役員には恵迪寮出身の人が多いのですが、彼らの「北大愛」は強いです。

北大同窓会は、たくさんのイベントを開催しています。私が直接担当しているものもたくさんありますが、その中の一つが、毎月 JR 大阪駅前の「北大会館」において開催している「三金会」という名の講演会です。2025 年 3 月 21 日、九州大学名誉教授の石野良純先生を招いて、「CRISPR の発見、機能解明、そしてゲノム編集技術へ」という講演会を開催しました。石野先生は、北大薬学部で博士号を取得された人で、2020 年にノーベル化学賞を受賞した「CRISPR-Cas9 によるゲノム編集技術の開発」の CRISPR の発見者です。



三金会 (2025.3.21)

上は、そのときの集合写真です。前列の左から 3 人目が石野さん、左から 5 人目が筆者です。

同窓会活動の最大の問題点は、仕事を持った人すなわち現役のサラリーマンは、ボランティア活動である同窓会活動に参加する時間がない、その余裕もない、ということです。現役のサラリーマンに同窓会に積極参加してもらうためには、北大同窓会が北海道大学に繋がるパイプになることであると思います。

北大はいい研究をたくさんやっています。同窓会が北大の研究を企業に紹介し、企業と北大との産学連携を創り、北大の研究を企業のビジネスに結び付けることができれば、現役のサラリーマンは、同窓会をビジネス構築の手段として考え、積極的に同窓会活動に参加するようになると思います。

北大は第 2 キャンパスに産学連携の受け皿をたくさん造ってします。しかし、北大は、多くの会社が本社や研究所をもつ首都圏や京阪神から遠く離れていて、地理的なハンディキャップがあります。首都圏の企業は東大などと、京阪神の企業は京大や阪大などと共同研究します。

北大卒業生の半数以上が首都圏や京阪神で働いています。北大同窓会は、地理的ハンディキャップを乗り越えて、北大の産学連携を創る力になれると思います。私は、宝酒造(株)バイオ事業部門で、阪大や北大や宮崎大学やインディアナ大学と共同研究し、研究をビジネスに結び付けた経験を生かして、愛する北大のために、同窓会の一員として、北大の産学連携に貢献していきたいと考えています。



平成ポプラ並木
写真提供：
吉成久和 (1978 文)

2025 年 北大会館祭 開催報告

岩崎 忠 (1997 (H09) 獣医)



2025 年 5 月 31 日 (土)、大阪第 2 ビルにて開催された北大会館祭に参加しました。その報告を兼ねて感想を綴りたいと思います。

会館祭では最初に北大会館代表理事・田島朋子さん、同窓会会長・植松高志さんのご挨拶があり、その後に辻賢司 北大社会共創部長が在校生の近況についてお話されました。そこでは昨年度の七大戦で北大が総合優勝を果たしたことや今年度は北大が主幹となる事が報告されたほか、部活や寮に属する学生たちが自

ら活動資金を集める取り組みとして、「Giving Campaign」に参加していることが紹介されました。この催しでは、全国の学生団体が特設サイトや SNS で活動を PR します。これに対して一般からの応援や寄付、企業からの評価が得られるとそれに応じて資金支援を受けられるということです。学生たちが活動資金を能動的に得ようとする姿勢に頼もしさを感じるとともに、応援メッセージを送るだけでも在校生のためになるという話ですので、ぜひ協力したいと思いました。ただ、寄付やメッセージの募集期間がかなり短いようで、卒業生や社会へどのように周知するか大学や同窓会団体に検討していただきたいと感じました。



辻賢司社会共創部長の挨拶

続いて、横田篤 北大理事・副学長より「北海道大学のサステナビリティ・SDGs の歴史と現在地」という講演がありました。北大は国土の 0.2% に及ぶ世界最大の演習林と広大な農場を有しており、その資産を活かしてフィールドサイエンスに強い大学として発展したこと、フィールドサイエンスは現在重視されている SDGs 課題の中核をなす学問であること、このため北大がどのような価値を生み出すべきかと言う議論では SDGs 達成が念頭に置かれているという説明がありました。また、農学校の後継組織たる農学部から全学部が分かれた歴史から、北大は学部間の垣根が低く、全学が丸となって様々な課題に取り組んでいるといいます。イギリスの高等教育専門誌 Times Higher Education 発表の SDGs 関連社会貢献度ランキングでは世界 1406 大学中総合 10 位、国内では 5 年連続 1 位という評価を受けているようで、社会実装を重視した姿勢が独自路線として高く評価されていることを嬉しく思いました。



横田副学長講演風景

また、現在創基 150 周年記念事業として「“イノベーションフロンランナーの育成”事業」、「古河記念講堂の改修・利用事業」、「北大敷地内 子供本の森 建築事業 (建築家 安藤忠雄氏のご協力)」を進めており、目標額 50 億円の記念募金を行っているとの事。これらの事業により古河講堂が現役に復帰して市民に開放されたり、大阪・中之島にある「子

供本の森」と同様の施設が構内に整備されれば、市民の憩いの場として、そして文化中心の一つとしての北大の役割がより一層重みを増すだろうと期待しています。

続いて、後藤貴文 北方生物圏フィールド科学センター教授から「先端生物科学、IoT及び宇宙技術による戦略的スマート放牧技術の可能性～スマートフォンで牛を飼おう～」という講演がありました。簡単に言うと、IoT 技術と高精度 GPS を組み合わせた放牧牛管理についてのお話で、放牧中の牛の位置をリアルタイムで把握したり、カメラを用いて非接触で体重測定したり、特定の牛にのみに自動で補助飼料（サプリメント？）を与えたりできる技術で、他のシステムと統合すれば、放牧牛の行動・健康・成長までもが一元管理できるようになるようです。これまでの酪農は 365 日休みなく、動物につきっきりで世話をしなければいけない営みで後継者のない斜陽産業の印象がありましたが、少人数で運営できる効率の良い、未来のある産業に転換できる可能性を感じました。



後藤教授講演風景

また、もう一話題として、妊娠期の母牛や子牛の飼料を工夫することで子牛の生涯の遺伝子発現を調節する試み「代謝プログラミング」についてもお話がありました。この手法が導入されると、成長期に牧草のような低栄養飼料を主体に与えても肉質の良い牛が育つようになり、農場の持続性と収益性を高められるとのこと。私は獣医出身であるため、母牛や生まれたばかりの子牛に与えられる栄養が子牛の免疫や成長に影響を及ぼすことは知っていましたが、その現象が遺伝子発現レベルで生涯にわたって続くことを詳細に説明づけられておられ、興味深くお聞かせいただきました。

これら技術は、放牧による過疎地や未利用地の活用で地方を活性化するだけでなく、牧草資源の活用を通じた輸入穀物依存からの脱却を実現する鍵となります。食糧自給問題を解決する手段の一つとして活用される日が楽しみです。

そして最後に北大会館理事の日下大器さんから「スリランカでの大仏建立とその際考えた宗教のこと」という講演がありました。留学生支援ボランティアに応募したことがきっかけで出会ったスリランカのお坊さんが「大仏を建立したい」と熱く語っておられ、80歳となった時に、その夢を実現されたというお話でした。その背後には日下さんご夫妻が設立した「日下基金」の支援があり、大仏の開眼式にご夫妻も招かれ、盛大なお祝いを体験されたそうです。日下さんはスリランカで奨学金制度創設や日下幼稚園の設立など、教育支援にも尽力しておられ、新しくできた大仏のそばにある日下幼稚園の先生が「毎朝ドアを開けるたびにお釈迦さまに出会える」と語ったというエピソードは、日下さんご夫妻の活動が人々の暮らしや心の中に深く根づいていることを感じさせるものでした。

これらの講演の後に北大会館内で懇親会が開かれ、来賓の方々と交えた懇談と恒例の寮歌斉唱があり、楽しい時間を過ごしました。今回の北大会館祭では母校のお話を懐かしく聞くとともに、こうした集まりの宣伝の場としての力を強く感じました。この場が卒業生たちの生業のアピールや情報交換の場としてより活用されるようにならないものかと思いを巡らせながら会を後にした次第です。

今回も会館祭の開催にあたっては、事務局の皆さまに多くのご尽力をいただいたことと思います。この場を借りて心より感謝申し上げます。

ウシを活かす未来型畜産システム：草資源・代謝プログラミング・スマート技術による畜産システムのパラダイムシフト

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場長／牧場長（兼任）教授
後藤 貴文



北海道大学の農場の任務は、農学の理論を技術化し、個別技術の総合体系化を行うとともに、その研究成果に基づいて学部学生に実習教育を施し、大学院生においては、先端研究を通して、農学及び農業の進展に貢献する有為な人材を養成することであると考えている。実践はなかなか難しいが、日本の食料生産の活性化とそれを担う人材の育成に努めたい。

1. はじめに：ウシという自然のバイオリアクター

ウシは植物資源をヒトが利用可能なタンパク質に変換する極めて巧妙なバイオリアクターである。反芻獣としてのウシは、牧草と水だけで 500～600 kg の体を維持し、妊娠した母牛は放牧地でほぼ水分しか摂取せずに 30～40 kg の子牛を生産する。この現象は、ウシが環境中の微生物を第一胃（ルーメン）に取り込み、植物繊維を分解・発酵することでエネルギーを得ているためである。ウシは、施設内での培養肉生産とは異なり電力も施設も不要で、草原さえあれば自動的にタンパク質を生産する、究極の自然型バイオリアクターである（図 1）。

2. 加工型畜産システムの限界とフードロス

しかし現代の畜産では、ウシに大量の穀物飼料を与える加工型肥育が主流となっている。アメリカでの牛肉生産システムのフィードロットでは 1 頭あたり約 2 トン、日本の和牛生産では 5 トン以上の穀物が必要とされる。日本の肉牛・乳牛飼養に使われる穀物飼料の 90% 以上が輸入に依存しており、これは深刻なフードロス構造である。世界では 8 億人が飢餓に苦しみ、年間約 500 万人の子供が餓死している一方で、日本の食料自給率は 40% を下回り、牛肉の自給率も 35% 程度しかない。畜産における飼料について、穀物価格の高騰やパンデミックによる供給網の寸断は畜産経営を圧迫し、食料安全保障の脆弱性を露呈している。また、飼料の多くを輸入に依存しているため糞尿の堆肥化による循環ができない状況がある。現在の和牛生産は牛舎での集約的な飼養が主要なので、アニマルウェルフェア等の課題もある。

3. 草資源中心の畜産への転換

ウシの本来の能力を活かすためには、穀物依存型から草資源中心の畜産システムへの転換が必要である。日本には豊富な植物資源があり、特に中山間地域や離島の耕作放棄地など未利用資源の活用が期待される。草資源による肥育は環境負荷が少なく、持続可能性が高いが、肉質や肉量の制御が難しく、ビジネスとしては粗放的である。これを克服するためには、肉質・肉量の制御技術と放牧牛の効率的な管理技術が不可欠である。

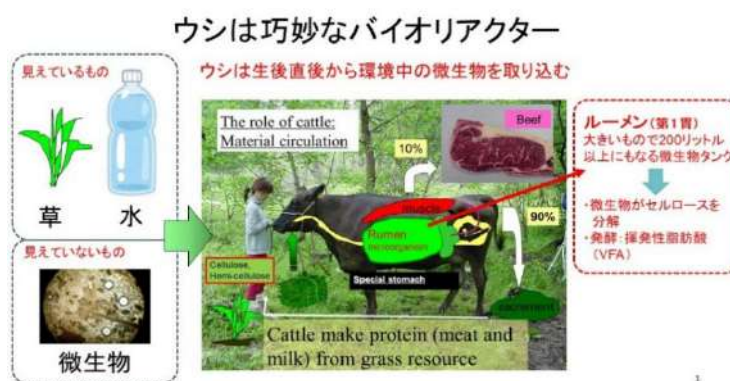


図 1. ウシは微生物と共生し、植物からたんぱく質を生産するバイオリアクター

近年、草地の持っている生態系サービス(Ecological service)としての多くの優れた機能(多面的機能)が注目されてきている。草地は単なる食料生産の場にとどまらず、環境保全や人々の生活の質向上にも寄与する多面的な役割を担っている。すなわち、草地(放牧地)は生産機能としての食料生産としての肉、乳などの畜産物の供給や副産物生産(羊毛、皮革などの素材提供)だけではなく、環境保全機能として、土壌保全(浸食・崩壊の防止)、水資源保全(水の浸透促進、水質浄化)、大気保全(CO_2 ・メタンの吸収、酸素供給)、生物多様性保全(草地生態系の維持、希少種の保護)、微気象緩和(局地的な気候の安定化)、山火事防止(火災リスクの軽減)、地力増進(土・草・家畜による物質循環、糞尿分解)などの機能が注目される。また、さらにアメニティー機能として、景観保全(草地・家畜・施設による地域景観の創出)、保健・休養機能(自然とのふれあい、レクリエーション、情緒教育、グリーンセラピー、アニマルセラピー、グリーンツーリズム)も評価が高まっている。このように、草地は農業・環境・社会の各側面において重要な機能を果たしており、持続可能な地域づくりに不可欠な資源と言える。

4. DOHaD 学説とエピジェネティクスによる肉質制御

近年注目される DOHaD (Developmental Origins of Health and Disease) 学説は、胎児期や新生児期の栄養が遺伝子発現に影響を与え、表現型(肉質や脂肪量など)を変えるというエピジェネティクスの考え方に基づく。具体的には、動物は、胎児期の母親からの栄養や、生まれてすぐの母親依存の栄養から、どのような体質を持てば、その後、生き残り、種の保存が可能となり得るかを考えている、ということである。それにより、遺伝子発現を変えて、細胞の数を変えて、あるいは体の化学反応のレベルを変え、つまり代謝を調節して、最終的に表現型を変える。著者らは和牛を用いた研究で、新生児期の栄養制御によって、草資源による肥育でも高品質な肉を得られることを示している(図2)。このモデルでは、筋肉量や脂肪分布(脂肪交雑度、いわゆる霜降りの度合い)、脂肪酸組成、筋線維構成などが変化し、DNAメチル化の差異も確認されている。

現在までの骨格筋の研究では、新生子プログラミングによる初期の高栄養により、エピジェネティクス修飾、遺伝子発現およびメタボロームの統合解析により筋細胞の β 酸化のシステムが変化し、脂肪酸が増加すること、さらに、初期の高栄養によりルーメンの微生物構成のプログラミングがなされる可能性が見出だされ、高エネルギーを産生する微生物が維持されることが明らかとなった(図3)。

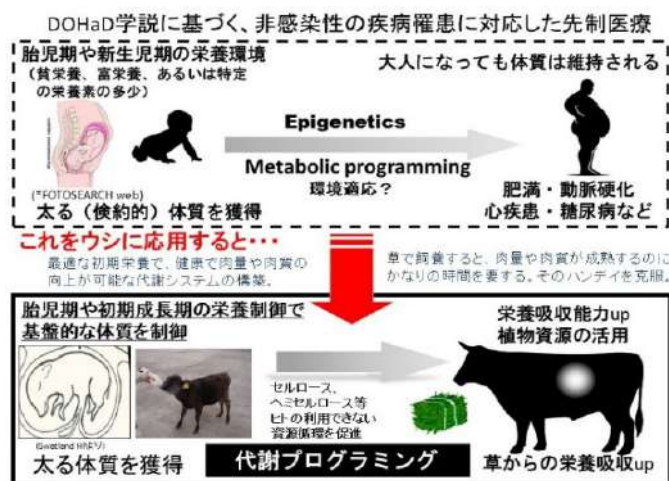


図2. DOHaD 学説の牛肉生産への応用と代謝プログラミング

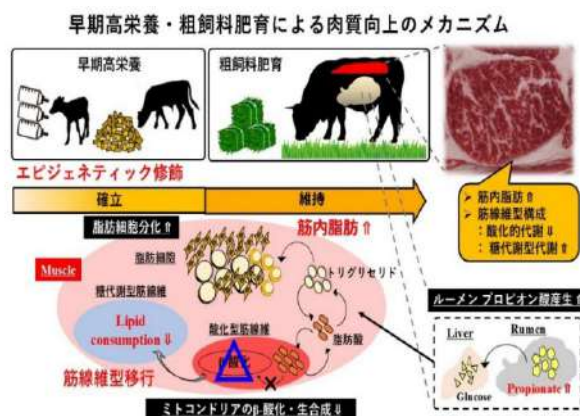


図3. 黒毛和牛のエピジェネティック修飾を基盤とした代謝プログラミングのメカニズム (Nishino ら、Animal、2025 の論文の図の改変)

これら3つのポイントにより放牧や粗飼料（牧草）で肥育しても、脂肪交雑の高い骨格筋を生産できることが明らかとなった（図3）。我々は脂肪交雑度の高い牛肉だけを生産したいのではなく、放牧肥育でも代謝プログラミングで様々な肉質の生産を調節したいと思っている（図4）。

胎児期の栄養差も骨格筋や肝臓のDNAメチル化に影響を与えることが示されており、これらの知見をもとに、初期栄養による代謝プログラミングを活用した体質制御が可能となる。現在、表現型の異なるウシ実験モデルを用いたフォワードエビジェネティクス解析が進行中であり、効果的な飼料開発と放牧肥育の効率化が期待される。

5. 宇宙牛プロジェクト：スマート放牧技術の導入

放牧牛の効率的な管理には、体重、位置、運動量、草量などのデータ把握が不可欠である。著者らは、画像解析による体重推定、高精度測位センサーによる行動履歴の把握、地球観測衛星による草量モニタリングなどの技術を開発。さらに、AIによる個体識別と遠隔自動給餌機を組み合わせたクラウド管理システムを構築し、放牧牛の緻密な管理システムの構築を目指して研究を進めている（図5）。

具体的には、GPSや準天頂衛星「みちびき」などのマルチGNSSによる高精度測位、地球観測衛星によるバイオマス推定モデルの構築、AIタグによる個体識別と自動給餌機の連携などが進められている。これにより、アニマルウェルフェアにも配慮したストレスの少ない自動飼養が実現し、粗放的な放牧から高度な畜産ビジネスへの転換が可能となる。



図4. 胎児および新生児プログラミングを合わせた新グラスフェッド和牛実験牛と生産された第1号の牛枝肉。放牧でも様々な肉質が生産できる可能性が見出されている。

COI-NEXT「次世代和牛生産システム構築拠点」

スマート放牧管理でZ世代が導く革新的な地域社会の実現 北海道大学から和牛生産システムのGame Change



図5. 代謝プログラミングとスマート放牧管理技術による次世代和牛肉生産システムと地域とのCOI-NEXTプロジェクト



図6. データベースの次世代和牛生産システムによるビジネス展開と農家のQOLの革新

最終的に体重、位置、運動量、草量等のすべてのセンサーのデータやそれから計算されたコストデータ等が、スマートフォンなどの端末に送られてきて、その中から必要なデータを選抜して、若い担い手が、自らでビジネスを組み立てる畜産が繰り広げられる。また、農家としてのライフスタイルも自分で決めることができる。このような次世代の畜産を目指している（図6）。

6. おわりに：日本型畜産の未来と社会的インパクト

日本の未利用植物資源を活用し、放牧による牛肉生産を高度化することは、食料安全保障と国土保全に直結する。著者は、代謝プログラミングとスマート技術を融合させた新しい畜産システムを提案し、Z世代や今後のデジタルネイティブ世代の若者が受け入れやすい農業モデルの構築を目指している（図5及び6）。これにより、現在の穀物依存型畜産から脱却し、持続可能で高効率なタンパク質生産システムへの転換が可能となる。

将来的には、スマートフォンで牛飼いができるようなデジタル畜産の世界を構想しており、これらの技術をパッケージ化することで、畜産業と社会システムに著しいインパクトを与えるパラダイムシフトが起これと確信している。現在、文部科学省、科学技術振興機構の「共創の場 育成型（Center of Innovation-Next）」の助成を受け、「次世代和牛生産システム構築拠点形成」を北海道の白老町と株式会社敷島ファームと連携して、畜産振興を通じて地域活性化を目指し、鋭意事業を実施している。

北大会館祭りのこと

日下大器（1962（S37）農）



数名の北海道大学の同窓生が母校を懐かしく思いつつ、関西の地で共に連携しながら、自己の業務を完遂しようと1962年に大阪で会合を開いた。それが北海道大学関西同窓会の発足である。しかしそれ以降、同窓生の自意識は盛り上がり、また広がりもなく時が過ぎた。これではいけないとある先輩が同窓生一人ひとりを訪ね、同窓会再興への協力や協力する友人の紹介を求めた。その熱意に応じて200人が集まる同窓会を1989年に開くことができた。その際しっかりした組織を構築し、毎年同窓会を開催することが出来るようになった。そして会を重ねると同窓会本部としての固有の場所を確保したいとの声上がり、それに向けて1億円を募金することになった。数年後2千万円程度の物件を見つけ出すことが出来た。しかし同窓会は任意団体だから不動産の登記は出来ないことを知らされた。それではと同窓会とは別に新規の法人団体を2002年に設立した。名称は一般社団法人北海道大学関西同窓会館である。2003年の5月に開館式を開いた。札幌から北大総長さんもお越しいただき「ここから『西』は母校の札幌からは手が届かないからこの北大会館を守る君達に北大からの情報の拡散を託する」とのお言葉を頂いた。我々同窓生は自由に使える独自の空間を持ったのでそれを知らせるために出来るだけ多くの同窓生に集まってもらって3日間にわたって開館を祝った。それは本当に楽しいことであった。これが「会館祭り」の始まりである。

以来毎年5月に「母校を知ろう」と声を掛け合って北大本部から、また特異な研究をしている教授さん、それに毛色の変った同窓生に来てもらって「会館祭り」を開催している。

大学本部からは北大の近未来計画、新渡戸カレッジの卒業生、アイヌ語の再生、博物館、大学文書館等の取り組み等を聞かしてもらい、教授さんからは留学生に人工衛星を組

み立てさせて帰国後それと交信してその国の最初の宇宙開発人になってもらう人材育成の苦労話等。一方同窓生側からは詩吟の吟じかたや、寮歌を尺八で演奏あるいはアイヌ語に翻訳したり、空手の演舞等が披露された。

本年は同窓生側からの題目は「スリランカでの大仏建立とその際考えた宗教のこと」である。

演者、日下大器は1962年武田薬品に入社、10年後に新物質を発見して学位を取得した。その時の上司が次は英語を学べと仰った。その時大阪の商工会議所から「大阪には留学してきている留学生が不安顔で過ごしている。その人たちに声をかける日本人の親になってくれませんか」との誘いがあった。それで私ら夫婦は1978年スリランカからの留学僧侶を受け入れた。彼は学生だと思ったがすでに立派な僧侶であった。会った時から仏舎利を入れる卒塔婆、仏像を建てる、若い僧侶の生活の場である僧園を建てると言っていた。彼は80歳を超えて「有言実行」したのである。私は陰ながらそれを導いていたと自負している。

どのように大仏ができたのかについては報告書を作成した。またBe ambitious 第90号35頁(2024)に投稿してある。

ところでこの大仏の周りに顔見知りの人が引っ越してきた。わざわざ引っ越して来た理由を尋ねると家の中から大仏を拝むことが出来るからだと言った。仏像などいつでも「見られる」、「拝める」のに変なことを云うなと思った。しかし、同時に宗教管理者(僧侶、牧師)は崇拝の対象を用意してあるのに秘仏だからと隠している。ローマ・カトリックは聖書をギリシャ語からローマ語に翻訳しない。翻訳しても1000年間も読まない。ドイツ人ルターは聖書をドイツ語に翻訳し、印刷して大衆が読めるようにした。これで宗教改革がおこった。ローマ・カトリックは英国国王の離婚を認めなかった。それで英国は独立した英国国教会を作った。輪廻転生から抜け出すために人は苦行難行しているが法然は「なむあみだぶつ」を唱えるだけでよいと云った。

民衆が望む宗教を民衆の手に戻してやるのが宗教改革なら家の中からでも大仏を「拝める」ようにしてあげた日下大器はルターか法然なみのことをしたのだと思っている。



一般の人の参拝

懇親会風景



学んで、食べて、話して、飲んで、有意義な一日でした

令和7年度校友会エルム総会参加報告

福井 毅（1980（S55）理）

総会報告の前に、校友会エルムについて少し説明します。北海道大学校友会エルム（以下「校友会エルム」）は2016年6月1日に発足しました。校友会エルムには、2025年6月現在で学部等同窓会18、学生寮同窓会1、地域同窓会25、海外地区同窓会18、職域同窓会2の計64同窓会が参加しています。北大内に事務局が常設され、職員も配置されています。それまでは、2004年4月に発足した「北海道大学連合同窓会」が有りましたが、北海道大学とその関係者の連携をさらに強化し、真のスーパーグローバル大学として自他ともに認める、世界トップレベルの大学を実現・支援するため、新組織となったわけです。定款によれば、「第3条 この会は、会員相互の親睦及び互助並びに知徳の啓発を図り、併せて国立大学法人北海道大学の目的及び使命の達成に連携・協力し、学術、文化、教育並びに社会貢献活動及び国際相互理解の促進に資することを目的とする。」と定められており、そのため、以下の事業を日本全国及び海外において実施することになっています。

（1）校友会及び会員により組織される同窓会（以下「基礎同窓会」という。）の会員情報の収集、整備及び管理（2）国内外の会員間及び基礎同窓会間の交流及び親睦のための活動（3）大学生及び大学院生の教育、研究及び就職活動に対する支援（4）校友会情報の発信による広報活動（5）会員の研鑽のための講座、セミナー等の開講（6）基礎同窓会への登録が期待される新たな地区、職域等での同窓会設立への支援（7）その他この会の目的を達成するために必要な事業

北海道大学関西同窓会は2004年から参加しており、校友会エルムでは現在、植松会長が校友会エルムの副会長、三津副会長が代議員、福井総務部長が理事として参加しているほか、北村芳久さんが就職・活動支援委員会委員、近藤武憲さんが組織・交流委員会委員として関わっています。

さて、定時総会は6月15日（日）15：30から、北大百年記念会館1階大会議室にて開催されました。まずは、2024年度（2024.4～2025.3）の事業報告があり、議案として同年度の決算報告と新年度の役員選任、その後は2025年度（2025.4～2026.3）事業計画（一部実績）と予算の説明、それに続いて創基150周年事業の状況、ホームカミングデー2025、日ごろ参加することがない地域同窓会の紹介があり、最後に会場からの質問を受けました。理事及び監事の選任では、これまでの会長である杉江和夫氏と副会長の佐々木亮子氏、監事の高野一夫氏と遠藤昭一氏が退任し、ほっかいどう同窓会会長の真弓明彦氏が新会長、法学部の藤田美津夫氏、北大理事・副学長の横田篤氏、東京同窓会の横田浩氏、関西同窓会の植松高志氏の4名が副会長に、監事は板垣洋氏と江本朋子氏に代わりしました。

校友会エルムの2024年度の活動は、新入会員向けのジンパ・クリスマスパーティ、保護者を対象としたキャンパスツアー・就職相談会、100円朝食の実施、TOEIC/TOEFL支援、国際インターンシップ支援などを行いました。その結果もあってか、2025年4月入学式ではこれまで最高の900余名が校友会の会員登録に至ったと思われます。また、校友



総会会場全景：百年記念会館地下1階大会議室での総会参加者

会エルム会報誌「エルムだより」第8号では国内地区同窓会の所在地・連絡先などを掲載して、卒業生に地区同窓会の情報を提供しています。一方、就職希望の北大生と企業をつなぐ「企業研究セミナー」を開催し、企業212社、学生2,918名が参加したことで、約4,600万円を売り上げ、3,800万円の収益となりました。これにより校友会エルムの収益状況も改善し、約2,000万円を次年度に繰り越すことが出来るようになったわけです。

2025年度の事業計画も2024年度と同様ですが、函館キャンパスでのジンパ開催、6月の企業研究セミナーの追加を予定しています。

大学からの報告として、實金総長からの創基150周年記念事業について、2026年9月26日・27日の記念式典・記念イベントでは、マサチューセッツ大学アムースト校、メルボルン大学などからも参加予定であり、日本内外で活躍している北大卒業生を招いての記念イベントを予定しているので、是非参加して欲しいとの話がありました。

その後、当日参加した地域同窓会の代議員から各地の地域同窓会の活動状況などの紹介があり、引き続き会場から質問を受けたところ、「多額の内部留保を保有するより大学の研究資金として寄付すべきではないか」との意見がありました。これについては、「現時点では寄付よりも内部留保による経営の安定化を優先したい」という回答であったと個人的には理解しました。以上を持って、総会は終了しました。

総会終了後は、百年記念館からインフォメーションセンター内「カフェ de ごはん」に会場を移し、ジャズ研メンバーによるジャズをバックミュージックに懇親会となり、農学院の宮地亮介君が運営している地ビールで乾杯、それに引き続き参加者それぞれで情報交換となりました。

今回は海外の同窓会からも出席者がいたので、私はハノイエルム会の上月浩氏、バンコク同窓会の中村彰男氏の3人で話したところ、お二人はいずれも神戸出身ということで、ご本人自身が驚いていました。そのあと、インドネシア同窓会のWijayaさん（北大に留学し、その後本国に帰国）と話したところ、インドネシアからもたくさんの方が北大に留学し、帰国後は母国の農業関係の主要な仕事をされているという話を伺いました。韓国同窓会の李宇新さんは、農学部農業生物で鶴をはじめとする鳥の研究をされ、今はソウル大学校の名誉教授でした。ほかの海外同窓会の方ともお話ししたかったのですが、時間がなく残念でした。

懇親会の終わりに退任する杉江前会長と真弓新会長からの挨拶があり、その後植松副会長による音頭で全員が肩を組んで都ぞ弥生を歌って、終了となりました。



創基150周年事業：實金総長による
創基150周年事業の説明



懇親会 乾杯：懇親会に先立ち實金総長
による乾杯。右から3人目が真弓新会長



都ぞ弥生：植松副会長の音頭で始まる、
40余名による都ぞ弥生

南紀で出会った北大—和歌山研究林ツアーに参加して—

林 祥史（2012（H24）文）



こんにちは、私は2012年に文学部を卒業しました林祥史（はやしよしひと）と申します。昨年2024年9月に和歌山県御坊市にある和歌山工業高等専門学校へ助教として赴任し、現在も本校で主に英語を教えています。その前は札幌市で高校の先生をしていました。

さてこの度、5月17日（土）18日（日）に北海道大学和歌山研究林において「-南紀熊野-神秘の森と里の暮らし」と銘打った探索ツアーが開催され、私は18日に参加しました。和歌山研究林は2025年3月に創立から100周年を迎え、その記念イベントとなります。

本研究林は1925年に暖帯林の研究と教育を目的として和歌山県古座川町に設置され、現在の面積は約450haにも及ぶ日本でも有数の研究林です。照葉樹林生態系の動態把握を目的とした植生や、動物のモニタリングや、人工林が生物群集に与える研究が継続して実施され、近年では森林内の情報通信、地域社会や文化に関する研究も行われています。また、小学生から大学院生、そして小中高教員や一般市民まで多様な団体に利用されており、今回のイベントのように遠路から訪れる来客者は宿泊することも可能です。建築物自体も三角屋根の可愛い出で立ちで、どこか北大古河講堂の面影があり、内装も現地の木材をふんだんに利用して温かさと清潔感が溢れています。



和歌山研究林庁舎の外観

この探索ツアーでは研究林職員の案内のもと里山の美しい風景や暮らしの実情、紀南地域ならではの照葉樹の森を体験し学ぶことができます。まず研究林庁舎からスタートし、古座川の源流にある人口約60人の小さな集落・平井の里山での暮らしをたどります。やがて集落を離れ、これからいよいよ研究林へと入っていき研究に使用されているモノレールに乗り「大森山保存林」へと進んでいきます。この「大森山保存林」は訪れる人々を虜にしてやまない、北大が百年にわたり見守り続けてきた手つかずの天然林です。苔むした岩、清流の水音、鳥のさえずり、深い緑の木々が織りなすその森は、現実世界とは一線を画した神秘的な空間です。ツアーを経て、私は北大と和歌山の不思議なつながりに驚きました。数ある都道府県の中から和歌山県が選ばれた経緯ですが、用地確保の検討途上で当時の全国知事会に声をかけたところ名乗りを上げたのが和歌山県だったからです。そして、用地の候補地は県内に4か所ありましたが、飛び地がないことと地域の誘致活動が熱心だったことなどから、最終的には平井集落で共同管理していた林地の一部を購入するかたちで創設に



モノレールで大森山保存林へ入っていくワクワクの参加者たち

至りました。なお、それ以来古座川町とは深い関係を維持しており、2018年には2者間で包括連携協定も結んでいます。このご縁が100年以上も続いていることを和歌山に住む北大OBとしてこの上なく嬉しく思います。

ちなみに、このイベントに先立って昨年2024年10月25日には北大の札幌キャンパスで「和歌山県古座川町×北大まると交流祭」というイベントも開催されました。私自身は参加できませんでしたが、聞くところによると清々しい秋晴れのもと11:30から19:45まで半日間、古座川町の大屋町長の呼び込みもあっておよそ700名の方にご来場いただけたそうです。人口60名程度の古座川町からおよそ15名も北大に集結し、町と北大の連携による地域の課題解決・活性化への取り組みに向けた交流を大盛況のもと実施されたと伺っております。

最後に私個人として一番印象深かったものですが、それは「御宿帳」でした。つまり、和歌山研究林に宿泊した宿泊客が書き残していったメッセージの数々です。私が拝見しただけでも3冊あり一番古いものは昭和2年(1927年)でした。大変大切に保存されており大きな破損もなく、一頁一頁読ませていただきました。

その中でもとりわけ心に残ったのは戦中に書かれたものでした。一番古い宿帳に最初の記帳がされた4年後の昭和6年は、世にいう柳条湖事件が起こり満州事変が勃発するなど、一気にきな臭い時代へと突入していく時期です。しかしながら、それでも研究林への来訪者は決して途絶えることはなく、記帳も継続的に行われています。例えば、昭和18年4月4日には「所長様始所員各位の勞苦に感謝しつつ山をさる」という謝辞とともに「御國の寶(やま)を守るのも米英撃滅の一つなり」と力強く書かれていました。なお、その前日にあたる4月3日に連合艦隊指令長官である山本五十六がラバウルに到着し同18日にパプアニューギニアのブーゲンビル島で撃墜されるなど昭和18年は太平洋戦争史における戦局の転換点で日本軍の苦境が目立ち始めた年です。それ以降の記帳は、戦局の悪化を知る後世から読み進めると胸が締め付けられる思いです。同じく昭和18年7月には「故郷想ふ平井が里の蛸に浴衣着て沁みる情や小野の岡」「待望六ヶ年國民兵の入隊で平井を去る」。翌19年8月には「入営に際して」との記載の横に「童で来たり兵で去る」、同9月には「決戦の時に山から馳せ参ず」。…。果たして彼らは無事だったのでしょうか。

最も終戦間際に書かれたものは昭和20年6月3日のもので、その一ヶ月後にあの和歌山大空襲が行われました。この日の記帳を最後にしばらく戦後は記録が残っておらず、確認されたものと昭和22年4月まで飛びますが、そのときにはすでに一切の戦争色はなく古座の美しい自然を賛美する内容に戻っていました。

私は文学部の卒業生で、現在は和歌山高専でカルチュラル・スタディーズ、つまり文化の研究をしています。修了したフィンランドの大学院ではシルクロードの少数民族の古代仏教



後ろ姿さえも胸躍るモノレールで上っていく参加者たち



庁舎内の宿泊部屋で見つけた昭和2年の御宿帳

壁画の研究を行っており、現地に赴きそこに残された文献や壁画などの視覚的な資料を読み解く方法論で研究を行いました。現在は研究対象を北大恵迪寮とし、寮内のビラや吊り看と呼ばれる大きな看板を一つの「文化」と見立てて研究対象としています（私は恵迪寮の卒業生でもあります）。つまり、私の研究分野からするとこのような歴史ある大学研究林の庁舎に残された宿帳はこの上ない学問的な価値のあるもので、それを紐解くことでなお一層和歌山と北大とのつながりが浮き彫りになるに違いありません。本稿ですべてを引用することはできませんでしたが、それぞれ瑞々しい鮮度で芳醇な熟成を遂げた文章ばかりでした。私は上述のとおり昨年9月から研究職になったばかりで現在博士号の取得を目指して担当教員と大学院を探していますが、何か本テーマでも面白い研究をできないかなと思案しているところです。

話は変わりますが、野幌の開拓の村で今年4月に恵迪寮舎の展示内容が一新され、私もその企画に携わり多くの恵迪寮の資料を集めデジタル媒体に保存しました。このように学術資料のアーカイビング、文化コンテンツの分析、学術成果の公開や展示の方法などをデジタル媒体によって行い研究する手法を「デジタル・ヒューマニティーズ（人文情報学・デジタル人文学）」と呼び、この動きは理系・文系を横断した学問的な世界的なトレンドです。その観点でも、本研究林は新たな大きな学術的な価値を持つと断言でき、革新的な可能性を持ちます。以上のとおり、私の専門分野から見ると和歌山研究林はこの上なく潜在的な可能性を秘めた底のしれない存在でもあるのです。

和歌山に来て本当によかったです！

糖尿病について～第5次対糖尿病戦略5ヵ年計画のご紹介～

根本浩一郎（1988（S63）医）



国際糖尿病連合が公開している糖尿病アトラス最新版(2025年8月現在)によると、世界中で約5.89億人(20歳～79歳)の人が糖尿病に罹患しています。25年後の2050年には、8.53億人に増加する見込みです。私がモントリオールにて初めて国際糖尿病連合国際会議の場で口演した頃(2010年)は2.85億人でしたので、まさに激増の一途を辿っている印象です。我が国は東南アジア諸国や豪州とともに西太平洋地域に属しており、この地域が世界で最も糖尿病人口が多いとされています。私が所属する日本糖尿病学会では、糖尿病は医療や社会保障における喫緊の課題であり、社会全体で取り組むべきテーマと捉えています。そこで

糖尿病があっても健康で充実した人生がおくれるように5年毎に「対糖尿病戦略5ヵ年計画」を策定しています。2025年は第5次5ヵ年計画策定の年にあたることから、このプロジェクトの一部を紹介することにより糖尿病に関する情報をお伝えします。

糖尿病は、膵臓内の β （ベータ）細胞から分泌されるインスリン作用不足に基づく慢性の高血糖状態を主徴とする代謝疾患です。インスリン効果が不足する機序として、インスリンの絶対的供給不全(多くは1型糖尿病に相当)とインスリン感受性の低下(多くは2型糖尿病に相当)が知られています。

ノーベル賞を受賞したバンティング氏がインスリンを発見してから100年経ち、当時は不治の病であった1型糖尿病はマネジメント可能な疾患となってきました。インスリンの針も

ほとんど痛みを感じないほど細くなりましたが、1 型糖尿病をお持ちの患者様にとって未だに一日に数回インスリンをうつという治療法は大きな負担であることは間違いないでしょう。

1 型糖尿病では、膵臓や膵島の移植、幹細胞治療、免疫治療や抗ウイルス治療といった新規の治療法の開発が進んでいます。1 型糖尿病に対する根治治療として、膵臓そのものを移植する膵移植手術は 1966 年にアメリカにて開始されました。特に膵腎同時移植は生着率も高く、一度生着すればインスリン治療が不要となる可能性が高い素晴らしい治療法です。しかしながら侵襲性が大きいのが難点です。一方、膵島(インスリンを作るところ)のみの移植は侵襲性が低いのが利点ですが、インスリン治療が不要となる率は 2 割程度という成績でした。2025 年 6 月にシカゴで開催された第 85 回アメリカ糖尿病学会にて発表された新規の方法では、インスリン治療が不要となる率が 83%(12 人中 10 人)であったということです。従来はヒト由来の膵島を用いていましたが、新規の方法では幹細胞から作製されたことが最大の違いです。1 型糖尿病を克服できる時代に近づきつつあるのかも知れません。

2 型糖尿病においても、新規薬剤の登場により血糖マネジメントのみならず体重や合併症の同時マネジメントが現実のものとなりつつあります。私は先に述べた国際会議にて、糖尿病発症予防のため過体重の方に対しては減量のため、過体重ではない方に対しては身体活動量を増やすために生活習慣修正が重要であることを発表しました。将来的には生活習慣と遺伝要素の両面から個別リスクを評価することにより、糖尿病発症予防及び合併症進展予防がオーダーメイドで可能となる時代が到来することが期待されます。当方も糖尿病専門家として微力を尽くしたいと身を引き締めているところです。

糖尿病治療の目標は糖尿病があっても、糖尿病がない人と変わらない寿命を全うし自己実現を図ることにあります(「図」参照)。このため、良好な血糖並びに体重/血圧/脂質体重マネジメントを長期間にわたって維持することにより、網膜症や腎症といった慢性合併症や脳梗塞・虚血性心疾患等の動脈硬化性疾患の発症・進展を阻止または抑制することが重要です。適正飲酒や禁煙も重要です。「図」のアドボカシー活動に関連して、本 5 ヶ年計画では「糖尿病対策基本法」制定を目指すことがうたわれています。この法律の目的は以下のとおりです。

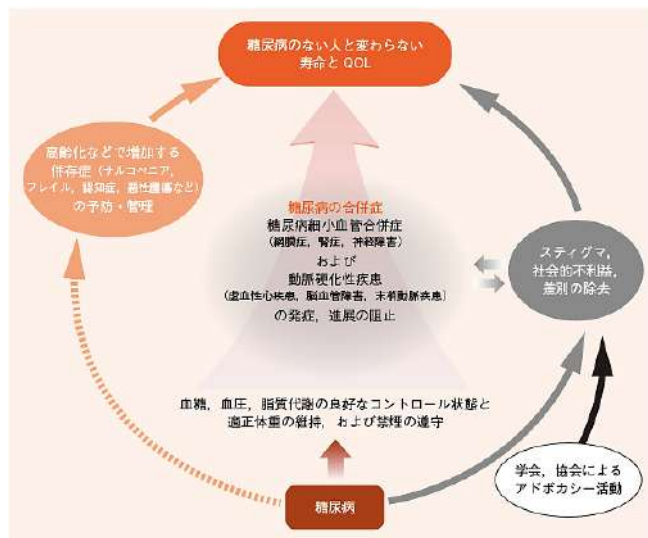


図 糖尿病治療の目標
(糖尿病治療ガイド 2022-2023 より)

- ①多職種が活躍できる環境整備と人材育成
- ②地域格差のない標準的な診療体制と報酬制度の確立
- ③スティグマのない社会づくりに向けた啓発と法整備の推進

③のスティグマに関しては、糖尿病という病名変更が現実的となりつつあります。この病名は明治時代以降のものであり、「漢洋病名対照録」に 1888 年(明治 21 年)に記載され、1907 年に日本内科学会講演会(総会)の場で医学用語として定着した経緯があります。日本糖尿病学会では、病気の本質を表していないことや患者様の治療意欲を削ぐことにつながりかねないことから世界的に通用している diabetes に変更することを提案しています。

本稿を読まれている卒業生の中には、日々糖尿病治療に腐心されている方もいらっしゃるかとお察しします。糖尿病治療は進歩しています。是非我々と共に糖尿病を克服すべく日々を過ごしましょう。

ようこそ、ロマンあふれる古代史の世界へ

三津正人（1970（S45）農）

昨年 11 月にスタートした「みんなで学ぶ古代史の会」は早くも 9 回目となりました。この間、多くの北大同窓生が参加し、札幌や、名古屋からもオンラインで参加されています。

6 月には新渡戸稲造遠友夏学校のオンライン授業で「私の古代史」をテーマに開催したところ、大変好評をいただきました。

古代は謎に満ちています。私たちの古代史の会は日本のみならず、東アジア、中央アジア、西アジアなどを含めた広範囲にわたる古代の歴史を対象としています。そして既成概念にとらわれず、自由な発想で学ぶことを特徴としています。

これまで開催した古代史の会は

第 1 回：飛鳥 その真実を探る（204.11.13）

第 2 回：神武天皇の実像に迫る（2024.12.21）

第 3 回：伽羅と新羅～その真実（2025.1.25）

第 4 回：氣長足姫と応神天皇の登場（2025.2.22）

第 5 回：世界最大の墳墓を築いた 仁徳天皇の実像に迫る（2025.3.22）



新撰姓氏録には難波の連の出自は高麗国好太土王とある。はたして仁徳天皇は好太土王なのか。戦乱の東北アジアに忽然と登場した高句麗広開土王。世界最大の墳墓・大山陵古墳は本当に仁徳天皇陵なのか。難波をつくった仁徳天皇の実像に迫る。

第 6 回：海人族の時代（2025.4.19）



ヤマト建国以前、日本は海人族の時代であった。海人族は主に日本海側を中心として、丹後王国、出雲王国、若狭や越などの文化圏を中心に栄えた。籠神社には天皇家と同じ家系図が残る。名古屋弁と丹後弁はなぜ似ているのか。京都葵祭が語る鴨氏の素性など、海人族の時代を学ぶ。

第7回：出雲王国論（2025.5.24）



出雲は古代史に数々の謎を残す。出雲とは何なのか。スサノオとは何か。出雲王国の実態に迫り、出雲の怨念の歴史をたどる。出雲はなぜズーズー弁なのか。出雲神話とヤマト神話の秘密とは何か。ヤマトにはなぜ出雲をまつる神社があるのか。知られざる出雲の謎とそのすごさについて学んだ。

第8回：古代を映す鏡（2025.6.22）



和歌山県隅田八幡宮に残された人物画像鏡に残された銘文が語る4～7世紀の古代史の裏側とは。仁徳天皇以後ヤマト王権はどのようなになっていったのか。安康天皇―雄略天皇―継体天皇とは誰なのか。倭国の王権を握った百済王家の実態とは。伽羅―高句麗―百済の三国が築いたヤマト王権とはどのようなものであったのか、謎の時代を学ぶ。

第9回：九州王朝の謎（2025.7.26）



邪馬台国の時代、日本はどのような状態であったのか。中国側が呼んだ倭国とは九州島の事であった。古代九州の二大文化圏とは邪馬台国と狗奴国の事である。なぜ日本書紀には邪馬台国の事は記されていないのか。西暦600年の遣隋使の派遣は九州王朝が行ったもの。磐井の乱とは何なのか。白村江の戦いと九州王朝の終焉について学んだ。

◎これからの予定

第10回：蘇我氏とは何か（2025.9.23 予定）（8月は夏休みです）

蘇我氏はその出自から実体まで厚いベールに包まれている。蘇我氏とは何か。

蘇我氏はなぜ大国隋に「日出処の天子」として親書を送ったのか。

日本の律令国家としての基盤は蘇我氏の時にできたのである。

聖徳太子を生んだ蘇我氏とは何者なのか。仏教が伝来し、ようやく国際社会の仲間入りを果たした日本の立役者は蘇我氏であった。

全く新しい観点から、蘇我氏の実像に迫る。

ますます面白くなる「みんなで学ぶ古代史の会」にぜひ参加し、参加者の皆さんと共に古代の歴史の謎に挑戦しましょう。

【参加者の皆さんから寄せられたコメント】



普段は関西同窓会の会報などろくに読まないのに第 91 号の三津先輩の記事「ペルシャの姫君」が目に残り、広告にあった「月氏の末裔」を購入して読んだのが「みんなで学ぶ古代史の会」を拝聴する契機となりました。中高生のころは歴史が苦手でしたが、毎回わくわくして聴いています。

伊東 真 (1980(S55)農)



私は 5 月と 6 月の会に参加しました。日本の古代史の中で空白の 4 世紀に何があったのか。三津さんが少ない資料を丹念に読み込み大胆な仮説を披露されました。大いにロマンと好奇心を掻き立てられました。

大釜和憲 (1971(S46)農)



大阪に本社のある某化学メーカー定年退職後、実家のある福井県越前市へ移住。昨年より地元シニアクラブ主催「演芸大会」で、地区代表としてチェロを独奏しています。越前国との関係の深い継体天皇の話が楽しみです。

奥山悦男 (1973(S48)理)



三津講師の著作の帯に「古代史の根幹が変わる仮説の提唱」とありました。実際に「学ぶ会」では古代史の驚異の謎解き（例えば、広開土王は仁徳天皇となる）を体験できます。次回は「邪馬台国は九州」が楽しみです。

佐藤亮一 (1963(S38)理)



「古代史は学ぶ題材として最適である」との三津さんの主旨に感じ入り、且つ古代史に興味があったので参加しました。第一回のお話を聞き、三津さんの多才なこと多彩な知識をお持ちであることに感心致しました。私は 88 歳と高齢ながら出来るだけ欠席することなく参加したいと思っています。

三段崎俊彦 (1959(S34)農)



グループ活動の会議室借用で北大会館にご縁。職場の同期生が記紀の解釈本を出版した事で日本人のルーツにご縁。我が家離れに滞在中の神大留学生家族は、偶然の縁か、月氏発祥地に近いウズベキスタン人！古代には親戚？かも。不思議な縁続き。三津先生の講義に、ますますハマり込んでいきます。

安國庫生 (1973(S48)農)

北水同窓会大阪府支部

顧問 徳永 徹

(昭37 水・製)

〒534-0027 大阪市都島区中野町五一四
桜宮リバーサイドINAC二二〇六
携帯(〇八〇)一四四三二六五〇五

くさか基金代表

(二社) 北海道大学関西同窓会館理事

日下 大器

(昭37 農・生)

〒663-8113 西宮市甲子園口二七五・四〇六
TEL(〇九〇)九〇九七二二二五

北水同窓会大阪府支部
北海道大学関西同窓会

顧問 大野 正浩

(昭36 水・製)

〒661-0035 尼崎市武庫之荘三・七・一七
FT AE XL(〇六)六四三六・四三三八〇
携帯(〇九〇)五〇四五・〇五五六八

北海道大学関西同窓会

顧問 米田 昌弘

(昭30 工・機)

〒651-1132 神戸市北区南五葉五・九・二四
FT AE XL(〇七八)五九一・六四一〇

(一社) 札幌農学校同窓会関西支部

顧問 和田 武夫

(昭40 農・農化)

〒569-1024 高槻市寺谷町二四・一八
TEL(〇七二)六八九・一六五八
e-mail: watake@lapisplaza.or.jp

(二社) 札幌農学校同窓会関西支部
京都大学名誉教授

顧問 天知 輝夫

(昭38 農・農化)

〒520-0022 大津市柳が崎九番一・三・三三
FT AE XL(〇七七)五七二・六五八八

北海道大学関西同窓会

副会長 山田 正幸

(昭37 薬)

〒666-0112 川西市大和西二・一・一六
TEL(〇七二)七九四・一六四〇

(二社) 北海道大学関西同窓会館理事
間中技術士事務所代表
北海道大学関西同窓会

相談役 間中 俊夫

(昭37 工・機)

〒658-0065 神戸市東灘区御影山手三・一・九・〇・〇
TEL(〇七八)八五一・四八三二
e-mail: uranaka@docuonet.jp

新コスモス電機株式会社

相談役 重盛 徹志

(昭43 理・修・物)

<http://www.new-cosmos.co.jp>

(二社) 北海道大学関西同窓会館理事
西日本恵迪同窓会相談役
北海道大学関西同窓会

副会長 伊藤 靖久

(昭42 工・建)

〒665-0886 宝塚市山手台西二・九・四
FT AE XL(〇七九七)八九・四三五一
e-mail: yasuhisa_iden@nifty.com

(株)タクマ

名誉顧問 手島 肇

(昭42 工・衛)

<http://www.takuma.co.jp>

石原産業株式会社

社友 織田 健造

(昭41 理・地鉱)

〒665-0845 宝塚市栄町一丁目六・二・二〇七二
TEL(〇七九七)七五・九八二七
e-mail: kenz314@yca-so-net.ne.jp

Be ambitious を読もう!

北海道大学同窓生の多岐にわたる活動が読めます。
会員の方には無料で配布します。
会員になって下さい。

会長 植松 高志
北海道大学関西同窓会

Be ambitious 93号の発刊に協賛します

井上 和男 (昭46 工・合化)
日 沖 勲 (昭40 農・工)
下 岡 健 藏 (昭45 工・応物)

特定非常利活動法人
大阪府砂防ボランティア協会

顧問 丸山 明 (昭43 工・土木)
e-mail: osakasabov@tea.ocn.ne.jp

波多 勇 (昭43 農・農化)

(一社)北海道大学関西同窓会館 代表理事
(一社)札幌農学校同窓会関西支部 相談役
産業・キャリアアカウンセラ―中小企業診断士
個人と組織を癒すこころべ人間関係研究所

田中 貞之 (昭44 農・生)

〒658-0048 神戸市東灘区御影郡家一三三二二六
TEL(〇七八)八四二五四六二
e-mail: sado7tana@willnet.jp

北水同窓会大阪府支部

顧問 久保田 幸一 (昭45 水・化)
携帯(〇九〇八三八一)〇八七五

北水同窓会大阪府支部

顧問 入江 和彦 (昭45 水・漁)
携帯(〇九〇三六七六)五〇〇一
e-mail: kavarie@k950net.jp

浦谷 義博 (昭45 水・水化)

西日本恵迪寮同窓会 相談役
北水同窓会大阪府支部 顧問
〒520-2421 野洲市野田一六七九



昭和27年(1952年)5月設立
工業薬品の製造・販売

要薬品株式会社

取締役会長 嶋田 誠 (昭42 農・農工)

本社:〒550-0003 大阪市西区京町堀3-2-7
Tel 06-6445-0876 <http://www.kaname-chem.co.jp>
臨海第1工場・臨海第2工場(堺市西区築港浜寺西町)

(一社)札幌農学校同窓会関西支部

相談役 三津 正人 (昭45 農・農工)
〒562-0045 大阪府箕面市瀬川一〇九二二四
TEL(〇七二)七二四一六八〇五
e-mail: masamichi323@gmail.com

丸二倉庫株式会社

代表取締役 湯川 康史 (昭47 経済)

亀田 康二 (昭47 農・農化)

TEL(〇七五)七二二八四一四

(一社)北海道大学関西同窓会館

会長 植松 高志 (昭48 法)

北海道大学関西同窓会

松元不動産鑑定株式会社

代表取締役 松元 照幸 (昭48 工・土木)
不動産鑑定士
〒651-0083 神戸市中央区浜辺通五二一四
神戸商工貿易センタービル八階
TEL(〇七八)二七二七八五五
FAX(〇七八)二七二七八五五

弁護士 中島 光孝 (昭49 法)

中島光孝法律事務所
〒060-0061 札幌市中央区南一条東二丁目一三
和興ビル七階一室
TEL(〇一一)五九六七四三一
FAX(〇一一)三五一一五二〇〇

北水同窓会大阪府支部

副支部長 石田 浩平
(昭54 水・食)

〒662-0032 兵庫県西宮市在住
携帯(090)3991-3344
e-mail: iwagib66@nifty.com

帆船会(体育会ヨット部OB会)関西支部長
北水同窓会大阪府支部顧問

玉置 純
(昭51 水・漁)

〒563-0023 大阪府池田市井口堂二丁目一四一A号
TEL(071)761-1346
FT AX(071)761-1346

有限会社あんでばんだん代表取締役社長
サブリメント管理士マスタ
北水同窓会大阪府支部顧問

大村 泰治
(昭51 水・食)

〒530-0063 大阪市北区末広町二丁目十七
エステムコート梅田東アパレス三〇二号
携帯(090)916-1149
e-mail: ope1711@comura@yahoo.co.jp
URL: https://www.andepandan.com/



日本絨氈株式会社
会長 池崎 博之
(昭51 工・機械)

〒592-8332 大阪府堺市西区蔡港浜寺西町八丁目二
TEL(072)268-0020
(事業内容) 各種カーペット・敷物の製造販売

北水同窓会大阪府支部

支部長 大橋 人司
(昭56 水・漁)

〒567-0044 茨木市穂積台八丁目
TEL(072)617-1511

安心と安全の老後をお手伝いします。
小さな会社の特色や技術をサポートします。

弁護士 中西 圭太
(昭54 水化・昭56 同修士)

新神戸法律事務所

〒650-0038 神戸市中央区西町三番地三井神戸ビル一階
TEL(078)599-5425
FAX(078)599-5424
e-mail: nakanishi@shinkobei.w.jp

脱サラで裁判官を三年していました。
手作りで丁寧な仕事を心がけています。

弁護士 北川 和郎
(昭54 水・漁)

紳法律事務所

〒530-0047 大阪市西区西長崎四丁目一七北ビル一五号三〇二
TEL(06)636-5101
FAX(06)636-5101
e-mail: kake@kizuna.net
HP: https://kizuna.net/

北水同窓会大阪府支部

理事 金子 哲郎
(昭54 水・食)

〒060-0005 札幌市中央区北一条西一丁目一〇一
(帰省先)
〒531-0073 大阪市北区本庄西一丁目一七三二二
携帯(090)3485-7106
e-mail: g09034857106@comore.jp

田丸産業株式会社

代表取締役 堀田 高志
(昭61 経)

〒550-0011 大阪市西区阿波座三丁目四タマビル
TEL(06)6531-6661(代)
FAX(06)6543-4403
URL: http://www.tamaru-ind.co.jp

代表 青木 孝之
(昭59 水・漁)



合同会社北大阪KBSC http://saiappor.jp/
〒567-0061 大阪府茨木市東条三丁目一八二二〇一
携帯(090)336-5411
saki002@biscuit.co.jp

北水同窓会大阪府支部

理事 佐藤 信光
(昭57 水・化)

〒654-0122 神戸市須磨区道正台
携帯(090)788-1111

北水同窓会大阪府支部

監事 佐々木 雅人
(昭56 水・化)

〒574-0064 寝屋川市下神田町二九八
FT AX(072)826-6396

北水同窓会大阪府支部

支部月例会(懇親会)を毎月開催

北大会館にて毎月第3土曜日 17:00~
会費 2000 円、飛入り参加歓迎です!

〈事務所〉

〒530-0001 大阪市北区梅田1-2-2-200号
大阪駅前第2ビル2階 北大会館内
支部長 大橋 人司 (昭56 水・漁)
TEL 06-6343-3736
e-mail: hokusui-osaka@mail.goo.ne.jp
支部ホームページ http://hokusuiosaka.d.dooo.jp/

会費 2 万円で終身会員。他にも特典もたくさん! 校友会ホームページはこちら



朝ごはんから
留学まで、
校友会が支援します

北海道大学校友会エルム
HOKKAIDO UNIVERSITY
ALUMNI ASSOCIATION ELM

弁護士 秋山 哲郎 (平6 法)

弁護士法人
グラス・オランジュ法律事務所
〒530-0003 大阪市北区堂島一丁目二番
TEL (06) 64557765
FAX (06) 64557765
E-mail: akiyama@grac-ortho.jp

北摂みらい 司法書士事務所

代表司法書士 光田 正子 (平17 法)

〒567-0868 大阪府茨木市沢良宜西一丁目二番
タウンス・ハイツ南茨木二番館二〇二号室
TEL (077) 6656214
FAX (077) 6656214
E-mail: mitsudamirai@hokusei-shinri.net

(一社)札幌農学同窓会関西支部

農学部同窓生の集い!!!

〒530-0001
大阪市北区梅田 1-2-2-200 号
大阪駅前第二ビル2階北大会館内
理事長 山田 勝 重 (昭53 農・農化)
TEL (06) 6343-3736

前身：明治3年創業 (本家藤井組ふとん店)
2020年11月 株式会社設立
理想の自分に邁進(邁進)する (永遠のBoy's be ambitious)

株式会社 **ボビサス**
代表取締役 **藤井 英嘉**

〒561-0881
豊中市中桜塚 2丁目 27-22
(阪急岡町駅：原田神社正門鳥居前)
TEL (06) 6852-5253
FAX (06) 6843-2393
携帯 080-1975-8008
e-mail: hidesannmaru3@yahoo.co.jp
(HP: https://rurihall.com 他)

泌尿器科やまなかクリニック
院長
医学博士 **山中 幹基** (平03・医)

〒553-0001
大阪市福島区海老江 2丁目 1-14-4
TEL: 06-6343-8700
FAX: 06-6343-8707
E-mail: yamakuro@hotmail.com
http://www.yamanakaclinic.com

(二社) 北海道大学山とスキーの会
北海道大学関西同窓会

下岡 健藏 (昭45 工・応物)



浅野日本酒店

日本酒をもっと身近に。
美味しさを多くの人に伝えたい・・・。

酒どころ・新潟で生まれた私にとって、日本酒はいつも身近にあるものでした。祝いごとなどのイベントはもちろん、日々の生活の中でも人生に彩りを添えてくれるのが日本酒でした。より多くの人に、本当に美味しい日本酒を知ってもらえれば、必ず楽しんでもらえるとの思いから、今までとは違う「酒屋」をオープンさせていただきました。

店主 浅野 洋平

530-0051 大阪市北区太融寺町2-17太融寺ビル1F
Tel: 06-6585-0963
OPEN: 11:00-23:00
京都、浜松町、三宮、横浜にも店舗がございます

大阪ガス エルム会

諸岡 孝明	(平成2年 法)
山口 哲	(平成2年 法)
竹中 豊樹	(平成3年 法)
北村 芳久	(平成6年 経)
植田 栄志	(平成8年 法)
小松 賢司	(平成17年 工・社)

同窓会運営のことならぜひご相談ください!

会報誌・記念誌など印刷物の製作
WEB サイト製作・更新代行
WEB 名簿システム「絆」

一企画・印刷・WEB・同窓会サポートー

有限会社プリンティングサービス

〒538-0043
大阪府大阪市鶴見区今津南 2-7-6
TEL: 06-6969-8111 FAX: 06-6969-8112
https://www.printing-s.jp

2007100
プライバシーマークを
取得しています。

広告大募集!

みなさまからの広告をお待ちしております
編集委員一同

第 30 回歴史ウォーク「郡山城（大和国）・城下町探訪」の報告

植松高志（1973（S48）法）

今回で「歴史ウォーク」は記念すべき第 30 回を迎えました。「歴史ウォーク」の歴史を調べてみますと、第 1 回は 2010 年 3 月 28 日（月）に「大和の箸墓古墳等古墳巡り」が行われています。お世話役の前田直臣氏（S43 理）が発足の趣旨を次のように述べています。

＜発足の趣旨＞ここ関西には、いにしえ人が残した遺跡が非常に多く存在します。このように恵まれた地に居住する我々は、古代遺跡を巡ることによって、いにしえ人の想いにふれる時空の旅へと誘ってくれます。古代遺跡を巡ることによって、①「いにしえ人の想いを馳せること」ができ、また②「歩くことで健康を維持し」、併せて③「北大同窓会会員相互間の親睦を図る」ことを趣旨として発足いたします。

第 30 回歴史ウォーク「郡山城（大和国）・城下町探訪」の報告

＜ご案内・実施報告＞

NHK 大河ドラマ「豊臣兄弟！」の放映が来年（2026）に迫り、私が居住する奈良県大和郡山市では「秀長さんプロジェクト推進協議会」も立ち上がり、お城の改修等、鋭意準備を進めています。観光協会では「郡山城主“秀長さん まるっとマップ”」を作成して、郡山城跡と城下町を“まるっと体験”していただくコースも開発しました。

そこで、観光協会のボランティアガイド（豊原会長）をお願いして「平和のシンボル、金魚が泳ぐ城下町」を探訪することにしました。丁度「第 64 回大和郡山お城祭（3/24～4/7）」も開催されていて「日本のさくら名所百選」に選ばれた史跡郡山城跡を彩る桜も観ることができます。日曜日の開催としましたので、現役の方も含め多くの方々のご参加をお願いします。

◇日時：2025 年 3 月 30 日（日）10 時～15 時（懇親会も含む）

◇集合：近鉄郡山駅改札口前 10 時

◇コース：秀長さんゆかりの 5 つの場所を巡る

近鉄郡山駅→①大納言塚（豊臣秀長の墓所）

→②郡山城跡→③春岳院（豊臣秀長の菩提寺）

→④箱本館「紺屋」（藍染商の町家）

→⑤源九郎稻荷神社（“義経千本桜”に登場する源九郎狐を祀る）

◇参加者（14 名：卒業年順・敬称略）

三段崎俊彦（S34 農） 遠藤将一（S45 理・助手） 伊藤靖久（S42 工） 手島肇（S42 工） 乗田昌司（S42 工） 前田直臣（S43 理） 波多 勇（S43 農） 下岡健藏（S45 工） 入江和彦・ユキエ（S45 水） 井上和男（S46 工） 植松高志（S48 法） 松下秀之（S54 農） 梅津邦夫（S55 工）

◇昼食懇親会 12:45～15:00：近鉄郡山駅前「旬味和膳：季乃庄」13 名参加

＜コースのミニガイド＞

①大納言塚（豊臣秀長の墓所）：1591年、



近鉄郡山駅に集合（前列右端が著者）

郡山城内で没した秀長はここに葬られた。兄の秀吉が近くに建立した大光院が墓所を管理していたが、大坂夏の陣で豊臣家が滅ぶと大光院は京都に移され、秀長の位牌は城下町の春岳院に託された。

- ②郡山城跡：郡山城は筒井順慶が築城しその後、豊臣秀長の居城となった。江戸時代には藩庁が置かれ、水野氏、松平氏、本多氏、柳沢氏が幕末まで統治した。安土桃山時代の野面（のづら）積み石垣が良好な状態で残る全国でも貴重な城跡で、石垣に寺院の礎石・石仏など多数の転用石材が使われているのが特徴。天守台からは奈良盆地を 360 度見渡せる素晴らしい眺望が楽しめる。



大納言塚



郡山城跡 お城祭開催中でした

- ③ 春岳院（豊臣秀長の菩提寺）：秀長が策定した郡山城下の商工業者特権（箱本制度）は、江戸時代も引き継がれ、春岳院は町人から篤い信仰を集めた。秀長の肖像画や箱本制度資料も伝わる。
- ④ 箱本館「紺屋」（藍染商の町家）：秀長の特許状（独占営業権）により藍染は大和郡山の紺屋町でしか営業できなかった。館内には、「箱本十三町」関連資料が保存されている。藍染体験工房などもある。



春岳院



箱本館「紺屋」



- ⑤ 源九郎稻荷神社（“義経千本桜”に登場する源九郎狐を祀る）：秀長と親交のあった僧宝誉（ほうよ）の夢枕に白狐が老翁の姿となって現れ郡山城の守護神となることを告げた。それを聞いた秀長は鎮守として城内に祀った。江戸時代に今の場所に遷座した。



源九郎稲荷神社



昼食風景

<豊臣秀長(1540～1591) プロフィール；ウィキペディア参照>

○豊臣秀吉の異父弟（同父弟説もある）。豊臣政権において内外の政務および軍事面で活躍を見せ、天下統一に貢献した。最終的には大和・紀伊・和泉の3ヶ国に河内国の一部を加え、約110余万石の大名となるに至る。また官位も従二位権大納言に栄進したことから、大和大納言と尊称された。秀吉は秀長を隣に配して重用し、また秀長も秀吉に異を唱え制御できる人物であった。短期間で成長を遂げ、徳川家康や伊達政宗など外様大名を抱える豊臣政権における調整役であり、政権の安定には欠かせぬ貴重な人物だった。

○秀長は温厚な性格で、秀吉を補佐し、彼の偉業達成に貢献した。また寛仁大度の人物で、よく秀吉の欠点を補った。そのため諸大名は秀長に秀吉へのとりなしを頼み、多くの者がその地位を守ることが出来た。寺社の多い大和を治めたが、大きな諍いもなかったことから実務能力も高かったと思われ、もし寿命が長ければ、豊臣の天下を永く継続させることができたかもしれないと評価されている。



2025 年第 2 回 北大関西同窓会 若手交流会 開催報告

光地悠輔（2001（H13）法）

～暑い夏が到来！そんな時こそ、やっぱり“絶品ジンギスカン”！
北海道に思いを馳せ、大いに食べて語り合しましょう！～

2025 年度第 2 回の若手交流会を、7 月 5 日（土）、昨年もお世話になった「ヤマダモンゴル」で開催しました！

通常はやむを得ない事情で欠席者が出ることもありますが、今回はなんとお店の定員 42 名のところに総勢 44 名が集まり、過去最多の参加者数となりました！補助席を使っ
ての大賑わいとなり、嬉しいことに初参加の方も 19 名と、新しい出会いもたくさんあり
ました。

人気の理由の一つは、やはり「ヤマダモンゴル」！最近では予約が取りにくいお店です
が、今回は特別に貸切で利用させていただきました。大阪で美味しい生ラムをお腹いっぱい
食べられるのはここだけ！

オーナーの“やよい”さんの粋なご厚意で、生ラム、マトン、野菜、ソーセージ、ベー
コン、そしてラーメンやカレーまで食べ放題！さらに、北大生にとって懐かしの“ベル食品
の成吉思汗タレ”までご用意いただき、思い出話にも花が咲きました。

学生時代の話から近況報告、業界情報の交換な
ど、交流の場としても充実した時間となりました。

今後もこのような交流会を定期的に開催してい
きたいと考えています。今回ご参加いただいた方は
もちろん、残念ながら都合が合わなかった方も、
次回はぜひご参加ください！

■実施概要

- 日時：2025 年 7 月 5 日（土）18:30～21:30
（3 時間食べ飲み放題！）
- 会場：ヤマダモンゴル
（大阪府大阪市中央区西心斎橋 4-8）
- 参加者：平成・令和卒業生 44 名



懐かしのジンギスカン！

■参加者の声

① 平成 19 年 経済学部卒 井上崇さん

今回で 3 回目の参加です。最初は会社の先輩に「北大の楽しい会があるよ」と誘われたのがきっかけでした。会社以外でも、こんなに北大出身の方がいることに驚きました。学部も業界も違う方々と交流できるのが毎回の楽しみです。私は体育会バドミントン部だったのですが、その先輩方にもこの交流会でお会いすることができて嬉しかったです！次回も楽しみにしています！

② 平成 15 年 工学部機械工学科院卒 植木良和さん

今回は同期の誘いで初めて参加しました。北大出身という接点だけで会話がもつかと心配すらしていましたが、杞憂でした。世代や学部を超えて北大ネタで大いに盛り上がりました。札幌駅の ESTA が無くなったのは衝撃でした。ジンギスカンは 15 年ぶりに食べました。ただ、自宅（兵庫県加古川市）から道頓堀はちょっと遠いなあ。都ぞ弥生を歌ったのは 20 年振りですかね。まだ覚えていました（笑）。在学中は体育会系バドミントン部に所属していましたが宴会の度に歌っていましたね。懐かしい限りです。スケジュールが合えばまた関西同窓会に参加したいです。幹事の皆様、アレンジありがとうございました。

③ 平成 27 年 農学部卒 守沖彩さん

今回が初めての参加です。Facebook でこの開催を知り、思い切って申し込みました。初めての同窓会で少し緊張していましたが、皆さんが温かく迎えてくださって、久しぶりに北大の風を感じられるような、懐かしく楽しい時間を過ごせました。本当にありがとうございました。今後もこうしたイベントにぜひ参加させていただけたらと思います。



大阪のエネルギー会社・ラガー・野球系の皆さんが集うヤマダモンゴルを貸し切り！



思い出話に花が咲きました！
(左：コメントを寄せてくださった井上さん)



お酒も入り、上機嫌！
(右奥：コメントを寄せてくださった植木さん)



初参加の方も多く、にぎやかなひとときに！
(左奥：コメントを寄せてくださった守沖さん)



全員で集合写真
皆さん、満面の笑み！

二水会・三金会の講演一覧（2025 年 3 月～2025 年 8 月）

二水会・三金会連絡担当 藤田久美（1977（S52）文）

北大会館で毎月開催される二水会（第二水曜日）と三金会（第三金曜日）では識者に特別講演を頂き、その後歓談して同窓生相互の親睦を深めています。遠隔地の方もご参加いただけるよう Zoom での開催も併用しております。

二水会		三金会	
2025/3/1	三段崎俊彦（S34 農） 生成 AI とチャット GPT	2025/3/21	石野良純（S61 薬学博士） CRISPR の発見、機能解明、そしてゲノム編集技術へ
2025/4/9	藤川晃成（S44 医） 人生と宗教 なぜ生きる？良く生きるとは？	2025/4/18	津田久美子（H15 農） 地球温暖化の原因の一つは本当に人間活動か？
2025/5/14	岩津雅晴（野村證券） 田邊和世（野村證券） 豊かな老後のために知っておきたいお金の話（シニア層向け）	2025/5/16	大西良佳（H16 医） 武澤恵里子（E.M.C 総合プロデューサー） 五感×メンタルヘルス
2025/6	休会	2025/6/20	伊藤靖久（S42 工） 人口問題から透けて見える日本の近未来 2025 年問題～2040 年問題の先に見えてくる日本
2025/7/12	寺田多一郎（S57 阪大院薬） お薬を知ろう II —「薬事法」から「薬機法」に	2025/7/18	浅野洋平 日本酒の話
2025/8	休会	2025/8	休会



5 月三金会



7 月三金会

本学関連トピックス

半導体フロンティア教育研究機構を設置

4月1日（火）、「半導体拠点形成推進本部」を改組し、半導体教育研究推進のヘッドクォーター機能を担う「半導体フロンティア教育研究機構」を設置しました。半導体関連の全学的な方針等の策定や学内の教育研究資源の効果的な統合、学外機関との連携強化、教育研究基盤の整備・運営を進め、教育研究機能の強化を図ることで、日本全体及び北海道地域における持続的な人材の確保、研究開発の高度化、産業政策の推進と地域社会の活性化に貢献します。

本機構は、半導体拠点形成推進本部長を務めた山口淳二理事・副学長（北海道半導体人材育成等推進協議会人材育成・確保ワーキンググループ座長）が機構長、葛西誠也総長補佐・量子集積エレクトロニクス研究センター教授、江崎敦雄元産学・地域協働推進機構副機構長が副機構長となり、「半導体教育研究開発戦略室」（室長：秋永 広幸情報科学研究院教授）、及び半導体の開発・利用に必要な要素ごとに統合する「半導体材料スマート創製部門」（部門長：島田敏宏工学研究院教授）、「次世代プロセス開拓部門」（部門長：松尾保孝電子科学研究所教授）、「次世代デバイス創発部門」（部門長：植村哲也情報科学研究院教授）、「半導体機能解析部門」（部門長：柴山環樹工学研究院教授）、「次世代応用システム創生部門」（部門長：浅井哲也情報科学研究院教授）を設置し、各学内組織とも密に連携しながら半導体教育研究推進機能の強化を実現します。

半導体関連企業からの実務家教員派遣、研究開発面での連携や、国内外の半導体分野におけるトップクラスの大学等との連携を進めながら、以下のような活動を進めていきます。

【半導体教育機能の強化】

先端半導体と本学の強みである「AI・データサイエンス」「フィールド科学」を活かし、半導体を「つくる」人材、半導体を「つかう」人材の育成を推進します。

● 半導体を「つくる」人材

自らの専門を高めつつ自由な発想に基づき価値創造に資する半導体を生み出す人材

● 半導体を「つかう」人材

半導体や半導体×デジタルの新たな使い方を暮らしに取り入れ社会の持続的な発展をもたらす人材

【半導体教育機能の強化】

半導体開発に資する研究に加え、半導体の新たな利用開拓（ユースケース開拓）を見据えた研究を推進し、半導体製造における課題解決、半導体の新たな利用先の創出による産業創出・経済社会システムの構築等に寄与します。

【「半導体プロトタイプングラボ」の整備・運営】

教育研究の実践の場として、設計・前工程・後工程・評価に係る一連の装置を備えた「半導体プロトタイプングラボ」を整備し、半導体分野の高度人材育成・輩出や研究成果の社会実装を加速していきます。

（経営企画本部企画課）

北大時報 No.853/令和 7(2025)年 4 月

きたキッチンで「北海道大学フェア」を開催

令和 4 年から開催し、今回で 4 回目となる「北海道大学フェア」を今年も開催しました。今年は 4 月 9 日（水）から 4 月 15 日（火）までの 1 週間にわたり、道産食品セレクトショ

ップ「きたキッチン」オーロラタウン店及び新千歳空港店の2店舗で、北海道大学認定ブランド商品を販売しました。

本フェアは、北海道大学、株式会社札幌丸井三越、株式会社北海道百科、株式会社北洋銀行の4者共同企画によるもので、大学が開発に関わった食品等を販売すると同時に、商品開発に至るストーリーや商品に活用されている研究成果を一緒に伝えることにより、商品のPRと大学の研究成果の社会還元を目指しております。

今年の北海道大学フェアでは、数ある北大ブランド認定商品の中から過去最大数の70アイテム以上を出品しました。



きたキッチン北海道フェアの様子

今回は北方生物圏フィールド科学センター余市果樹園の林檎を使用したクラフトビール「北大林檎」、遺伝子病制御研究所の宮崎忠昭特任教授が開発したクラーク乳酸菌を配合した「北大クラークラスク」、水産科学研究院が開発した海洋栽培技術により栽培された北大ガゴメ®を使用した「北大ガゴメのカレー」「北大ガゴメとホタテのリゾットの素」、北方生物圏フィールド科学センターで品種改良された北大ラズベリー®を使用した「米粉のまどれーぬラズベリー」「北大の実り ラズベリーシリーズ」、そして北方生物圏フィールド科学センターで栽培された酒米を使用した純米酒「奥智」、奥智の「酒粕」など数多くが初登場しました。

今後も、産学・地域協働推進機構では北海道大学認定商品を通じたブランド力の向上と情報発信により、地域との連携と社会貢献に努めて参ります。(産学・地域協働推進機構)

北大時報 No.854/令和7(2025)年5月

「北海道大学・自治体連携フォーラム」設立記念シンポジウムを開催

6月21日(土)、フード&メディカルイノベーション国際拠点多目的ホールにて、「北海道大学・自治体連携フォーラム」設立記念シンポジウムを開催しました。本フォーラムは、広報・社会連携本部が中心となり、学内での自治体連携の事例や自治体連携に関わる教員・研究者の見える化を図りながら、全体窓口として本学と自治体の組織的かつ学際的な連携を支援することを目的として設立されたものです。

当日は、北海道庁をはじめとする24の自治体から首長や副市長などの特別職を含む61名、本学の教員・研究者46名のほか民間団体などの参加者合わせて148名にご来場いただくとともに、オンラインでも56名が視聴するなど、総勢204名が参加する盛会となりました。

シンポジウムは、寶金清博総長の開会挨拶に続き、包括連携協定を締結している自治体である北海道の鈴木直道知事、札幌市の秋元克広市長、函館市の大泉潤市長を来賓としてお迎えし、それぞれご挨拶いただきました。その後、行松泰弘理事から本フォーラム設立の趣旨説明があり、続いて、本フォーラムの会長を務める公共政策大学院の山崎幹根教授による基調講演「北海道にふさわしい連携をめざして」を行い、さらに、斜里町の山内浩彰町長と国際広報メディア・観光学院の石黒侑介准教授、上士幌町の竹中貢町長と工学研究院の森傑教授による対談形式で、本学と自治体による具体的な連携事例を紹介し、自治体との連携の具体像を参加者と共有しました。

基調講演後の休憩時間には、寶金総長、鈴木知事、秋元市長、大泉市長及び山崎教授によ



記念撮影(左から山崎教授、鈴木知事、寶金総長、秋元市長、大泉市長)

る記念撮影が行われ、会場は和やかな雰囲気になりました。

シンポジウム終了後に同会場にて開催した懇親会には、84 名の方にご参加いただき、自治体関係者と本学の教員や研究者との間で活発な交流が行われ、今後の連携に向けた関係構築が深まりました。

本フォーラムは、今年度末までを試行期間とし、自治体の課題解決に向けた連携の手法等について検証した上で、来年 4 月より本格的に稼働する予定です。（広報・社会連携本部）

■北海道大学・自治体連携フォーラム ウェブサイト <https://forum.ops.hokudai.ac.jp/>

北大時報 No.856／令和 7（2025）年 7 月

工学女性増加プロジェクト「We are Engine.－女性エンジニアは世界のエンジン」

工学部は、株式会社北海道新聞社及び株式会社電通北海道の協力のもと、道内外のパートナー企業と連携し、新プロジェクト「We are Engine.－女性エンジニアは世界のエンジンだー」を立ち上げました。本プロジェクトは、工学分野で活躍する女性たちに光を当て、中学生・高校生等に向けてロールモデルを可視化することで、工学分野における女性比率の向上を図るものです。さらには、企業や大学のイノベーションの推進、我が国の産業競争力の強化にもつなげていくことを目指しています。

6 月 13 日（金）に行われた記者発表会では、はじめに工学研究院の林重成副研究院長がプロジェクトの概要について説明し、続いて、企業や大学の工学分野で活躍する女性ロールモデル 6 名が現在の仕事内容やメッセージについて語りました。工学研究院からは応用量子科学部門の松浦妙子教授が女性ロールモデルとして登壇し、司会は川本真奈美学術主任専門職が務めました。

林副研究院長は、「例えば、工業製品のデザインや開発では、使いやすさや安全性の観点から、多様なニーズに応えるために、多様な視点やアイデアが求められます。日本では女性の人口が男性より多いこともあり、工学人材のジェンダーバランスの改善は重要な課題の一つです。大学だけでなく、社会全体でこの課題に取り組んでいきたいと考えています」と力強く訴えました。



工学分野で活躍する女性ロールモデルたち

また、6 月 23 日（月）の「国際女性エンジニアの日」にあわせて、北海道新聞朝刊に全 30 段見開き広告を掲載しました。広告には、女性ロールモデルたちが登場し、工学を選んだきっかけや現在の仕事内容などを紹介しました。記事面には、東京大学の横山広美教授監修の「世界を前進させるのは、女性エンジニアだー工学＝男性という思い込みが、イノベーションを止めているー」と題する論考も掲載しています。新聞広告と同様のビジュアルを用いたポスターも制作し、より多くの女子生徒に本プロジェクトの趣旨を届けるために、道内の中学校・高等学校に配布しました。

今後は、実行委員会（北海道大学工学部、株式会社北海道新聞社、株式会社電通北海道）と、本プロジェクトの趣旨にご賛同いただいたパートナー企業の皆様とで「We are Engine. 会議」を発足し、プロジェクトが進めるべき施策を議論し、実行していきます。これからも多様な活動を展開し、取り組みの輪を広げてまいります。（工学院・工学研究院・工学部）

北大時報 No.856／令和 7（2025）年 7 月

入退会者情報

総務部長 福井 毅 (S55 理)

会報 92 号 (2025 年 3 月 7 日集計) 以降、2025 年 9 月 3 日までに物故者 3 名、退会者 12 名、住所不明者 4 名、入会者 6 名でした。メール会員は同期間に 22 名が入会しました。亡くなられた皆様のご冥福をお祈り申し上げます。
また、退会された方々のこれまでの当同窓会へのご支援ご協力に感謝申し上げます。

物故者

射手矢建造 (S46 法)、濱本富美雄 (S32 工・土木)、永松 悌 (S36 工・冶金)

入会者

林 祥史 (H24 文・人文)、渡邊健人 (H29 工・環境社会)、小林 光 (S59 水・食品)、
本間盛行 (H2 理・数)、一ノ関弘祐 (H9 理・地物)、松元孝宣 (S62 文・文)

北大会館サポーターならびに募金箱のご報告

一般社団法人北海道関西同窓会館 代表理事 波多勇、田島朋子

北大会館の経営難にあたり、2025 年 1 月からサポーターを募集して寄付をお願いしてきました。また、北大会館に募金箱を常設したほか、関西同窓会総会、農学同窓会総会、琵琶湖ジンパなどのイベントの際にも募金をお願いしてきました。多くの皆さまから暖かいご協力をいただき、おかげさまで北大会館第 23 期の決算では赤字を抜け出すことができました。2024 年 8 月～2025 年 7 月に賜りましたご寄付は以下のとおりです。

1. サポーター

2025 年 1 月から 2025 年 7 月の間に 24 名のかたから合計 360,000 円のご寄附をいただきました。同意をいただいている方々のご芳名を掲載させていただきます。

伊東 真 (S55・農)、入江和彦 (S45・水)、植松高志 (S48・法)、瀬並和弘 (一般)、
波多 勇 (S43・農)、平原伸幸 (S53・工)、廣瀬 裕 (S59・水)、深井敬三 (S40・工)、
丸山 明 (S43・工)、三段崎俊彦 (S34・農) 五十音順、敬称略

2. 募金箱

2024 年 9 月から 2025 年 7 月の間に 273,914 円のご寄付をいただきました。

みなさまのご厚意に深く感謝いたします。本当にありがとうございました。

赤字は脱しましたが、会館運営が経済的に苦しいことには変わりはありません。経費削減に励みつつも、内装や設備の充実を図り、みなさまに快適にご利用いただけますよう、今後も努力を重ねる所存でございます。

これからもサポーターの募集ならびに募金箱の設置は続けますので、継続してご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

役員会議事録公開のお知らせ

北海道大学関西同窓会は 3 ヶ月ごとに会長、副会長、理事による役員会を開催し、同窓会の運営にあたっております。同窓会がどのような課題に対してどのように取り組んでいるかを会員の皆様に知っていただくことは、同窓会活動へのご理解をいただくうえでも必要と考えます。そこで、会報 Be ambitious の発行に合わせ、当同窓会ホームページ上に当該期間の役員会議事録を公開することといたしました。つきましては、役員会議事録を会報とともに下記 URL からご覧ください。

URL: <https://hokudai-kansai.org/category/be-ambitious/>

PW: Ambitious2023

編集後記

150 周年の特集記事に私自身の七大戦を思い出した。二年時の第4回大阪大会は府立体育館での開催。道頓堀川に面し蒸し暑い旅館はエアコンがない時代。7月下旬の猛暑下の連戦で消耗し、1週間で4,5キロは減少した。疲労困憊しても若さのすばらしさ、直ぐに回復して、岡山、琵琶湖、金沢等を観光した。大阪駅裏の宿では母と同年配の仲居さんが衣類を洗ってくれた。よい時代だった。
波多 勇 (S43)

“特集「北大創基 150 周年記念」コーナー”にたくさんの方々より寄稿をいただきました。誠にありがとうございました。来年度が正に 150 周年の記念の年です。94 号そして 95 号に、皆様からの“思い出・北大愛”をお届け下さい。お待ちしております。
下岡健蔵 (S45)

5 月に北海道大学和歌山研究林創設 100 周年と言うことで南紀古座川町の北大研究林を訪問する機会に恵まれました。実は 12 年前にも柚子がたわわに実ころ、同窓生 11 名と訪問しています。だから今回で 2 回目。今回も研究員に温かく迎えられ、研究林の存在意義や動植物の生態、オオサンショウウオの生態などのレクチャーを受けモノレールでの森の散策を楽しみました。山紫水明の広大な自然財産を持つ我々は幸せ者です。有用活用で本学の学術研究に寄与する期待大です。
井上和男 (S46)

2020 年以降、コロナ禍で会議やイベントはリモートでの参加が多かったが、今年は母校北大に 3 回 (5・6・8 月) 行き、和歌山研究林創立 100 周年記念探索ツアー (5 月) にも参加した。5・6 月は校友会エルムの理事会・社員総会、8 月は「7 大戦の現役応援団激励会と演舞演奏会」。7 大学の OB・OG が馳せ参じ、現役も含め 330 名がサッポロビール園で氣勢を上げた。和歌山研究林探索ツアーは比類なき北大のスケールの大きさを実感できるイベントであった。コロナ禍から解放され、自由世界の良さを肌で感じる事ができるものとなった。
植松高志 (S48)

今月号も「より読み易く」ということで本文を A4 版、オールカラーとして 2 段組みから 1 段組みにしました。来年は創基 150 周年ですが、会報「Be ambitious」の特集として 93 号も『北大 創基 150 周年を思う』として投稿いただいています。94 号にも掲載しますので、みなさんの『北大への思い、思い出』の寄稿をお待ちしています！
八田方良 (S52)

大阪万博開催の中、多くの方が会場に集結しています。55 年前の大阪万博に感動した子どもだった私たちも、今暑い中携帯ベンチに座ってパビリオンに長時間並んでいます。ヒトの好奇心は過去の記憶で増幅されるのでしょうか？・・・と万博会場で強く感じました。好奇心を掻き立てる話題提供にしたいものです。
山田勝重 (S53)

統計開始以来最も平均気温の高かった夏。暑さは続いていますが、木々の葉は緑が褪せてきました。夜明け前、東の空に見えるオリオンもだんだんと高い位置に。暑くても季節は進んでいます。夏のお疲れを出されませんように
田島朋子 (S54)

今回も若手北大卒業生を対象とした交流会の報告を掲載しました。光地さんの記事のようにこれまでの交流会よりも参加者も増え、さらに参加者の北大愛が爆発！です。また、和歌山研究林ツアーは大学企画事業への参加報告です。貴重な研究林や研究の取り組みを知る良い機会ですので、当該記事を読んで少しでも研究林に興味を持っていただければ嬉しいです。このようなツアーへの参加も企画していきたいと思います。
福井毅 (S55)

恵迪寮同窓会が発刊する会誌「恵迪」の編集委員もしていますが、募集して瞬く間に原稿の集まる「恵迪」に比べて、関西同窓会会報は原稿集めに編集長の苦労が絶えません。長く編集長を務められた下岡健蔵さん、ご苦労さまでした。新編集長に就かれた八田方良さんをサポートして、これからも楽しい会報をお届けできるようにしたいと思います。
野呂雅之 (S56)

会員獲得のご協力のお願い

会員増強委員長 福井 毅（S55 理）

本同窓会の更なる発展のため、新たな会員獲得を進めています。皆様のお近くに当会に未入会の同窓生がおられましたら、どうぞ本会への入会をお勧めください。また、当会からもご本人に加入の案内を致しますので、未加入卒業生がおられましたらお知らせください。

北大関西同窓会

E-mail: elmkansai@hokudai-kansai.org

Be ambitiousへの 投稿のお願い

当会報は年2回発行され、会員のみに配布される機関誌です。皆様からの自由な投稿をお待ちしております。

1. 内容：北海道大学・北大同窓会及び同窓生に関すること
2. 字数：2,000～3,000 字（2～3 頁）
3. 写真・図：1頁当り2～3枚
4. 宛先：北海道大学関西同窓会編集委員会

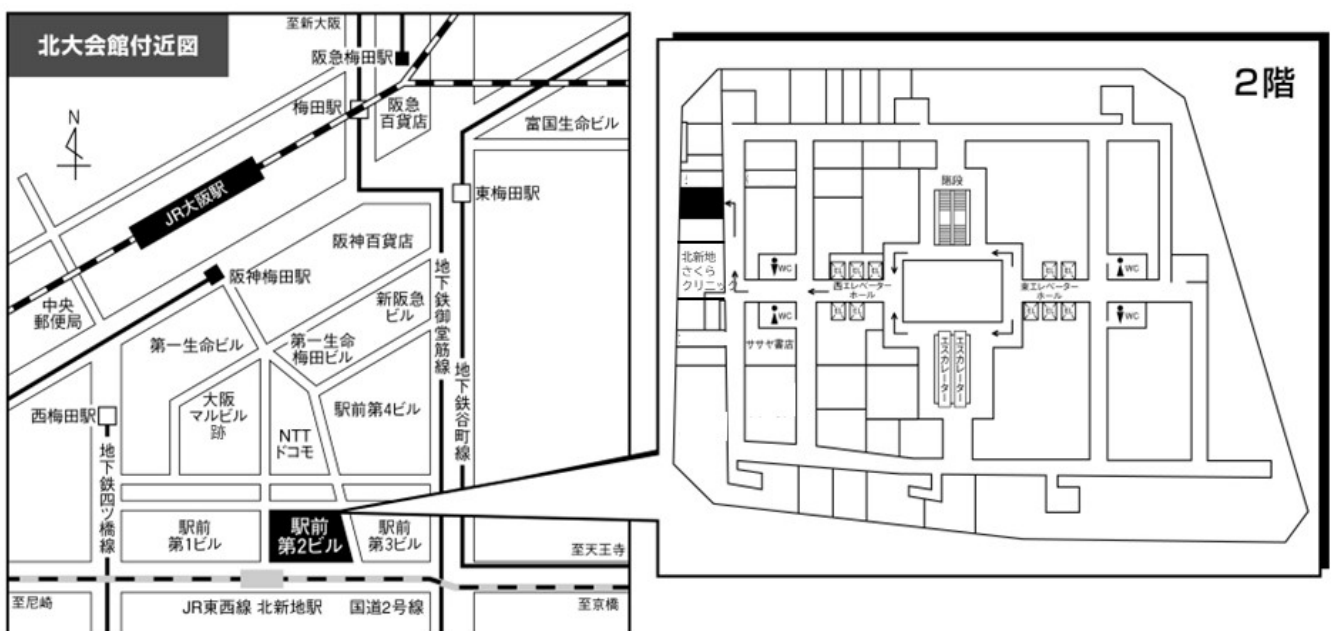
E-mail: elmkansai@hokudai-kansai.org

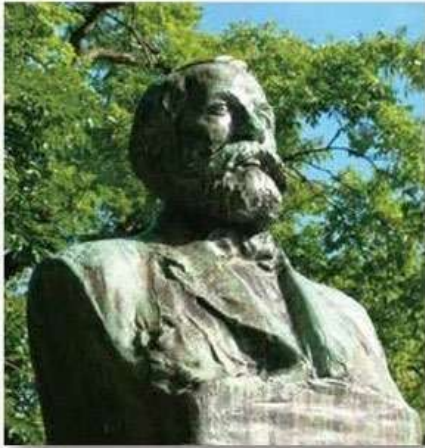
Word原稿で上記メールアドレスまでお送りください。写真はWordに貼り付けるのではなく、別にjpgファイル等でお送りください。

北海道大学関西同窓会・北大会館所在地

大阪市北区梅田1-2-2 大阪駅前第2ビル2階北西の隅

阪神百貨店の西側を南へ徒歩2分、梅田DTタワーの南





北海道大学関西同窓会会報 第93号

発行日：2025年（令和7年）9月30日

編集者：八 田 方 良

発行者：北海道大学関西同窓会会長

植 松 高 志

表紙写真：北海道大学植物園

吉成久和（1978 文）提供

発行所：北海道大学関西同窓会

〒530-0001 大阪市北区梅田1丁目2-2-200

大阪駅前第2ビル2階北大会館内

Tel・Fax：06-6343-3736

E-mail：elmkansai@hokudai-kansai.org

印刷所：（有）プリンティングサービス

〒538-0043大阪市鶴見区今津南2-7-6

